

一般国道9号安来道路建設予定地内  
埋蔵文化財発掘調査報告書 西地区I

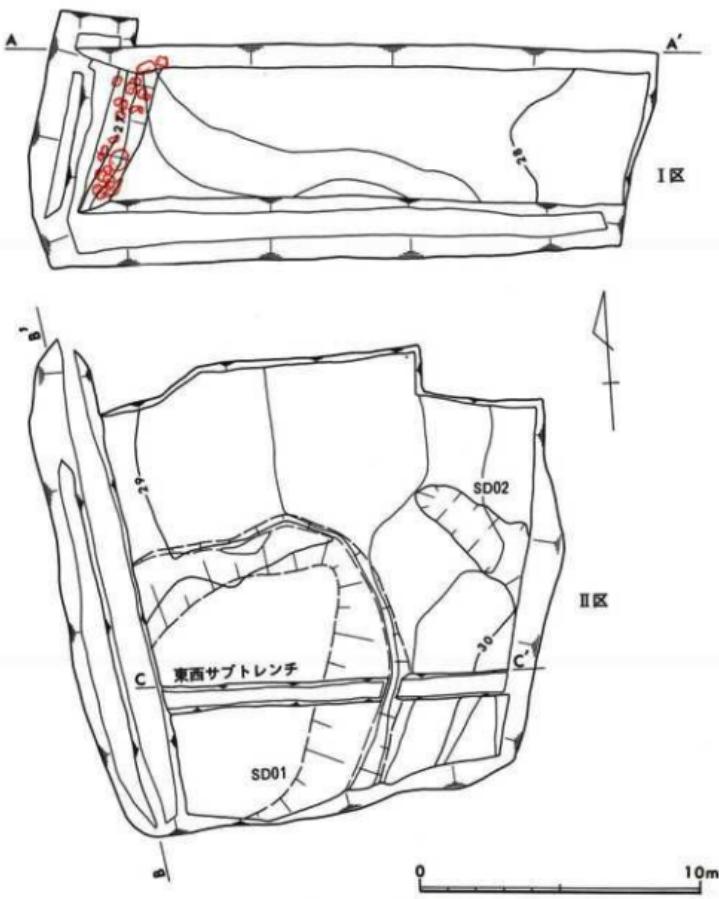
(御崎谷・土元・清水遺跡ほか)

1993年3月

建設省松江国道工事事務所  
島根県教育委員会

安来道路発掘調査報告書－西地区 I  
正 誤 表

| 頁  | 行       | 誤            | 正            |
|----|---------|--------------|--------------|
| 序文 |         |              |              |
| 2  | 10      | ……、平成3年度……   | ……、平成4年度……   |
| 本文 |         |              |              |
| 目次 | III(12) | ……43         | ……45         |
|    |         |              |              |
| 6  | 第2表     | 14 林廻り古墳     | 14 林廻り遺跡     |
|    |         |              |              |
| 7  | 第3図     | (朱色印刷ズレ)     | (差し替え)       |
|    |         |              |              |
| 8  | 第3表     | 13 大鳥遺跡      | 13 大鳥遺跡      |
|    |         |              |              |
| 23 | 第16図    | (朱色印刷モレ)     | (差し替え)       |
|    |         |              |              |
| 27 | 19      | ……検出したところで…… | ……検出したところで…… |
|    |         |              |              |
| 48 | 11      | ……、写真6)。     | ……、写真5)。     |
|    |         |              |              |
| 48 | 17      | …(第45図11、12) | …(第45図10)    |
|    |         |              |              |
| 51 | 写真      | 写真7          | 写真6          |
|    |         |              |              |
| 52 | 写真      | 写真8          | 写真7          |



第16図 清水遺跡全体図

ではあるがⅡ区において溝状遺構（SD01・2）2条を検出した。

### I区

対象地の北半部分であり、現水田面は標高約29mである。現在の水田層の下層には圃場整備による盛土が厚くみられ、また旧水田層や地山もかなり削平を受けており、明確な遺構は検出できなかった。調査区西端付近では、盛土の下層、現水田面から1.2m下で、地山を加工し、若干盛土を施して造った面に、大きさ・形態とも不規則な自然石を2～3段積み上げた石組列を伴う土手状の施設を検出した。この施設によって区画された西側部分では、より低いレベルで青灰色や黄灰色の旧水

一般国道9号安来道路建設予定地内  
埋蔵文化財発掘調査報告書 西地区Ⅰ

(御崎谷・土元・清水遺跡ほか)

1993年3月

建設省松江国道工事事務所  
島根県教育委員会

## 序

島根県教育委員会では建設省中国地方建設局の委託を受けて、国道9号安来道路建設予定地内（西地区）に所在する遺跡の発掘調査を実施いたしました。

安来道路予定地の調査については、平成元年度から中心部の6.9km区間について実施しております。平成4年度からは西部の八束郡東出雲町内においても調査に着手いたしました。

この地域は、古代文化の中心地であった意宇平野と安来平野に狭まれた地で、須田川・意東川・羽入川などが形成する美田地帯と京羅木山・星上山から派生する丘陵地帯、そして前面には中海と非常に自然環境に恵まれています。

今年度の調査では、この地域では初めて勾玉などを作っていた遺跡も見つかりました。

本書が、この地域の歴史を解明する手かがりとなって、文化財に対する理解と関心を多少なりとも高めることができ、地域の活性化に寄与することができれば幸いです。

なお、調査にあたりご協力いただきました建設省松江国道工事事務所、東出雲町をはじめ関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成5年3月

島根県教育委員会教育長

坂 本 和 男

## 序

建設省松江国道工事事務所においては、安来地区の一般国道9号の交通混雑を緩和して、円滑な交通を確保し地域社会の発展に資するため、一般国道9号のバイパスとして安来道路の建設を進めています。

道路整備に際しては、埋蔵文化財の保護にも十分留意しつつ関係機関と協議しながら進めていますが、避けることのできない埋蔵文化財については、道路事業者の負担によって必要な調査を実施し、記録保存を行っています。

当安来道路においても道路予定地内にある文化財について島根県教育委員会と協議し、同委員会のご協力のもとに平成元年度から発掘調査を行っています。

本報告書は、平成3年度に実施した遺跡調査の結果をとりまとめたものであります。本書が郷土の埋蔵文化財に関する貴重な資料として、学術ならびに教育のため広く活用されることを期待すると共に道路事業が文化財の保護にも十分留意しつつ進められていることへのご理解を頂きたいと思うものであります。

最後に、今回の発掘調査及び本書の編集にあたり、ご指導ご協力いただいた島根県教育委員会並びに関係各位に対し深甚なる謝意を表すものであります。

平成5年3月

建設省中国地方建設局松江国道工事事務所

所長 神長耕二

## 例　　言

- 1 本書は、建設省中国地方建設局の委託を受けて、島根県教育委員会が平成4年度に実施した一般国道9号安来道路建設予定地内（西地区）埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 平成4年度から着手した「安来道路2—2工区」（安来市荒島町～八束郡東出雲町出雲郷）を、便宜上「安来道路西地区」と呼称する。
- 3 平成4年度は、「安来道路西地区」のうち八束郡東出雲町地内の下記3遺跡の発掘調査と22遺跡のトレンチ調査を実施した。

御崎谷遺跡（八束郡東山雲町下意東字御崎谷ほか）

千光寺遺跡（八束郡東出雲町下意東字上元）

清水寺遺跡（八束郡東出雲町下意東字高清水）

- 4 調査組織は次のとおりである。

〔事務局〕 目次 理雄（文化課長） 勝部 昭（埋蔵文化財調査センター長） 山根 成二  
(課長補佐) 久家 儀夫（課長補佐） 高橋 研（主幹・文化係長） 伊藤 宏  
(文化係干事) 工藤 直樹（企画調整係干事） 有田 實（島根県教育文化財同  
嘱託）

〔調査員〕 宮澤 明久（主幹・調査第一係長） 津森 敏（教諭兼主事） 森山 敏広（教諭  
兼主事） 原田 敏照（主事） 勝瀬 利栄（主事） 格 英史（講師兼主事）

〔遺物整理〕 曹井 国江 高木 由佳 金坂恵美子 金津まり子 安達 裕子 馬庭志津子

- 5 発掘作業（発掘作業員雇用・測量発注・重機借入・プレハブハウス借入・発掘用具調達など）については、建設省中国地方建設局・社団法人中国建設弘済会・島根県教育委員会の三者協定に基づき、島根県教育委員会から（社）中国建設弘済会へ委託して実施した。

（社）中国建設弘済会島根支部

〔現場担当〕 布村 幹夫（技術員） 吉岡 勇治（技術員） 〔設計補助〕 原 博明（技術員）

〔事務担当〕 福塚 幸子

〔発掘作業員〕 西谷 節子 森本 鶴吉 高麗 玉子 荒川 清子 横松 一枝

玉川 敏子 石倉 徳郎 西田 標巳 古野 信子 福島 初枝

北垣 澄子 藤本 明古 高麗 寿子 石本 早苗 石倉 キクエ

佐藤 弘子 安部 美恵子 三島 政子 掛田 ヨシエ 引野 美都恵

引野 キミヨ 佐貫 琢真 浜田 タネ子 清山 富子 太田 佐恵子

小原 本衛 福寄 ヒロエ 森脇 リエコ 小松 憲吾 佐藤 弘

|        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 森広 勝治  | 景山 静大  | 森広 保   | 富士本 貢  | 森本 百合子 |
| 梅原 雅人  | 周藤 とし子 | 一瀬 波子  | 原田 吉江  | 角 美智恵  |
| 上山根 幸  | 広江 正奇  | 藤本 和子  | 小室 キヨエ | 小室 幸   |
| 松浦 須美江 | 野津 花子  | 松村 俊子  | 一瀬 覚   | 須山 武道  |
| 昌子 昇   | 川上 尚男  | 石倉 邦浩  | 森広 治恵  | 富士本 裕子 |
| 生馬 文子  | 上田 安子  | 石原 和夫  | 豊田 スエ子 | 青山 ハルノ |
| 佐々木 隆  | 勝部 京子  | 足立 熊太郎 | 石橋 徳夫  | 荒川 あかね |
| 周藤 元一  |        |        |        |        |

6 報告書の作成にあたっては、以下の方々から有益なご助言をいただいた。記して感謝の意を表させていただく。(敬称略)

|                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 三浦 清 (島根大学教授)     | 田中 義昭 (島根大学教授)        |
| 勝部 衛 (玉湯町教育委員会)   | 片岡 詩子 (玉湯町教育委員会)      |
| 江川 幸子 (東出雲町教育委員会) | 山内 紀嗣 (天理大学附属参考館学芸科)  |
| 日野 宏 ( " )        | 関川 尚功 (福原考古学研究所主任研究員) |
| 明石 新 (平塚市教育委員会主査) |                       |

7 本書で使用した遺構略号は次のとおりである。

S D—溝、S K—土壤、P—ピット、S X—性格不明の遺構

8 掘図中の方位は国上調査法による第Ⅲ座標系X軸の方向を指す。従って磁北より $7^{\circ} 12'$  (真北より $0^{\circ} 32'$ ) 東の方向を示す。ただし、III-2 の清水遺跡掘図中の方位は磁北を示す。

9 本書に掲載した「遺跡位置図」は建設省国土地理院のものを使用し、「調査区位置図」「トレンド配列図」は建設省松江国道工事事務所のものを净書して使用した。

10 本書の作成は、調査及び遺物整理に携わったものが分担して作図、執筆し、集団討議を行って編集した。執筆分担は本文目次に示すとおりである。

11 出土遺物及び実測図、写真は島根県教育委員会(埋蔵文化財調査センター)で保管している。

## 本文目次

|                     |                |
|---------------------|----------------|
| I 位置と環境 .....       | (森山) ... 1     |
| 周辺の遺跡 .....         | 1              |
| II 調査に至る経緯と経過 ..... | (宮澤) ... 6     |
| III 調査の概要 .....     | 10             |
| 1 御崎谷遺跡 .....       | (勝瀬) ... 10    |
| 2 十元遺跡 .....        | ( " ) ... 18   |
| 3 清水遺跡 .....        | ( " ) ... 20   |
| 4 トレンチ調査箇所 .....    | (原田・勝瀬) ... 27 |
| (1)恵比須遺跡 .....      | 27             |
| (2)鶴賀遺跡 .....       | 27             |
| (3)岸尾遺跡 .....       | 29             |
| (4)島田池古墳群 .....     | 29             |
| (5)島田遺跡 .....       | 33             |
| (6)長剣遺跡 .....       | 36             |
| (7)長剣古墳群 .....      | 36             |
| (8)淡山池古墳群 .....     | 37             |
| (9)淡山池遺跡 .....      | 39             |
| (10)原ノ前遺跡 .....     | 42             |
| (11)四ツ廻Ⅱ遺跡 .....    | 42             |
| (12)四ツ廻Ⅰ遺跡 .....    | 43             |
| (13)大鳥遺跡 .....      | 46             |
| (14)林通り遺跡 .....     | 46             |
| (15)勝負遺跡 .....      | 48             |
| (16)堂床古墳 .....      | 51             |
| (17)堂床遺跡 .....      | 53             |
| (18)受馬遺跡 .....      | 53             |
| (19)毛無遺跡 .....      | 54             |
| (20)毛無古墳 .....      | 54             |
| (21)巻林遺跡 .....      | 55             |
| (22)巻林横穴 .....      | 55             |

## 挿 図 目 次

|                                 |       |
|---------------------------------|-------|
| 第1図 東山雲町の位置                     | 1     |
| 第2図 周辺の遺跡                       | 3.4   |
| 第3図 ルート予定地と調査を実施した遺跡            | 7     |
| 第4図 御崎谷遺跡・上元遺跡調査区位置図            | 10    |
| 第5図 御崎谷遺跡調査前地形測量図               | 11.12 |
| 第6図 御崎谷遺跡全体図                    | 13.14 |
| 第7図 S D 0 1・0 2 実測図             | 15    |
| 第8図 S D 0 3・0 4・0 5、S K 0 1 実測図 | 16    |
| 第9図 S K 0 2、P. 1・2 と土器出土状況      | 17    |
| 第10図 S K 0 2 周辺出土上器実測図          | 18    |
| 第11図 その他の出土上器実測図                | 18    |
| 第12図 十元遺跡全体図                    | 19    |
| 第13図 土元遺跡南壁土層図                  | 19    |
| 第14図 清水遺跡調査区位置図                 | 20    |
| 第15図 清水遺跡土層図                    | 21.22 |
| 第16図 清水遺跡全体図                    | 23    |
| 第17図 S D 0 1 実測図                | 24    |
| 第18図 S D 0 1 上層堆積状況             | 25    |
| 第19図 S D 0 2 実測図                | 26    |
| 第20図 出土上器実測図                    | 26    |
| 第21図 恵比須遺跡・鶴貫遺跡出土土器実測図          | 27    |
| 第22図 鶴貫遺跡第5トレンチ（北東壁）七層図         | 27    |
| 第23図 恵比須遺跡・鶴貫遺跡トレンチ配置図          | 28    |
| 第24図 岸尾遺跡第9トレンチ（西壁）上層図          | 29    |
| 第25図 岸尾遺跡・島田池古墳群トレンチ配置図         | 30    |
| 第26図 岸尾遺跡・島田池古墳群出土土器実測図         | 31    |
| 第27図 島田池古墳群第15トレンチ（横穴墓：墓道）横断土層図 | 32    |
| 第28図 島田池古墳群第13トレンチ出土占銭          | 33    |
| 第29図 島田遺跡第6トレンチ（西壁）土層図          | 33    |

|      |                           |    |
|------|---------------------------|----|
| 第30図 | 鳥田遺跡・長廻遺跡・長廻古墳群トレンチ配図     | 34 |
| 第31図 | 島出遺跡・長廻遺跡・長廻古墳群出土土器実測図    | 35 |
| 第32図 | 鳥田遺跡出土土人形                 | 35 |
| 第33図 | 長廻遺跡第1トレンチ（西壁）土層図         | 36 |
| 第34図 | 長廻古墳群出土石器実測図              | 37 |
| 第35図 | 渋山池古墳群トレンチ配置図             | 38 |
| 第36図 | 渋山池古墳群出土土器実測図             | 39 |
| 第37図 | 渋山池遺跡・原ノ前遺跡トレンチ配置図        | 39 |
| 第38図 | 渋山池遺跡出土遺物実測図              | 40 |
| 第39図 | 渋山池遺跡第9トレンチ（東壁）土層図        | 41 |
| 第40図 | 原ノ前遺跡出土土器実測図              | 42 |
| 第41図 | 四ツ廻II遺跡・I遺跡トレンチ配置図        | 43 |
| 第42図 | 四ツ廻II遺跡山上遺物実測図            | 44 |
| 第43図 | 四ツ廻II遺跡第9トレンチ（北壁）土層図      | 45 |
| 第44図 | 大鳥遺跡・林廻り遺跡トレンチ配置図         | 46 |
| 第45図 | 林廻り遺跡出土遺物実測図              | 47 |
| 第46図 | 林廻り遺跡第2トレンチ（北壁）土層図        | 48 |
| 第47図 | 勝負遺跡・堂床古墳・堂床遺跡・受馬遺跡トレンチ配図 | 49 |
| 第48図 | 勝負遺跡（II区）出土土器実測図          | 50 |
| 第49図 | 堂床古墳第2トレンチ（北壁）土層図         | 51 |
| 第50図 | 堂床古墳地形測量図                 | 52 |
| 第51図 | 堂床古墳山上土器実測図               | 53 |
| 第52図 | 堂床遺跡出土遺物実測図               | 53 |
| 第53図 | 受馬遺跡第7トレンチ（北壁）土層図         | 53 |
| 第54図 | 毛無遺跡・毛無古墳トレンチ配置図          | 54 |
| 第55図 | 巻林遺跡・巻林横穴トレンチ配置図          | 55 |
| 第56図 | 巻林遺跡第4トレンチ（南壁）土層図         | 56 |
| 第57図 | 巻林遺跡出土土器実測図               | 56 |

## 表 目 次

|                  |       |   |
|------------------|-------|---|
| 第1表 周辺の遺跡一覧表     | ..... | 5 |
| 第2表 調査工程表        | ..... | 6 |
| 第3表 調査を実施した遺跡一覧表 | ..... | 8 |

## 写 真 目 次

|                       |       |    |
|-----------------------|-------|----|
| 写真1 調査風景              | ..... | 9  |
| 写真2 第1トレンチ木棺墓発掘状況     | ..... | 32 |
| 写真3 第15トレンチ横穴墓墓道発掘状況  | ..... | 32 |
| 写真4 第9トレンチ遺物出土状況      | ..... | 41 |
| 写真5 第1トレンチ土器出土状況      | ..... | 48 |
| 写真6 勝負Ⅱ区第5トレンチピット検出状況 | ..... | 51 |
| 写真7 堂床古墳墳丘に散在する石材     | ..... | 52 |

## 図 版 目 次

|                            |       |                   |
|----------------------------|-------|-------------------|
| 図版1-1 御崎谷遺跡遠景              | ..... | 図版3-1 土元遺跡調査前近景   |
| 図版1-2 御崎谷遺跡S D01・S D02検出状況 | ..... | 図版3-2 土元遺跡地盤状況    |
| 図版1-3 御崎谷遺跡P.2検出状況         | ..... | 図版3-3 清水遺跡調査前近景   |
| 図版2-1 御崎谷遺跡S K02完掘状況       | ..... | 図版4-1 清水遺跡I区完掘状況  |
| 図版2-2 御崎谷遺跡北東側斜面           | ..... | 図版4-2 清水遺跡II区完掘状況 |
| 図版2-3 御崎谷遺跡出土土器            | ..... | 図版4-3 清水遺跡出土土器    |

## I 位置と環境

一般国道9号安来道路建設予定地となっている八束郡東出雲町は、島根県の東部に位置し、西は松江市、東は安来市に接している。南には、京羅木山(473.0m)をはじめとする山々を隔て、能義郡広瀬町が位置し、北には中海が広がっている。平地は中海に面した北側と、京羅木山をはじめとする山々から北方向に派生する尾根が形成する幾つかの谷に限られる。現在の湖岸線は揖屋干拓地を除き、縄文海進の後、縄文末期(約3200~2600年前)の小海退により形成されたものとほぼ同じであり、この後、平地を中心に入々の生活が盛んになったと考えられる。今回の調査地は、古代山陰道の推定されている地域周辺で、古くから交通の重要な役割を果たしてきた地域である。

本年度調査遺跡の報告にあたり、以下、周辺の遺跡について述べておく。

### 周辺の遺跡

**縄文時代** 縄文時代の遺跡としては、縄文時代前期から晩期の上器が出土した竹の花上遺跡があげられる。この遺跡は、更に弥生時代後期にまで至る複合遺跡である。このほか、春日遺跡から縄文時代晩期の土器が、大木権現山2号墳地山面のピットからも同じく縄文時代晩期の土器が出土している。

**弥生時代** 弥生時代の遺跡の中の遺跡としては、春日遺跡、古城山遺跡、阿太加夜神社境内遺跡、寺床遺跡、磯近遺跡があげられる。なかでも、磯近遺跡からは、弥生時代中期の完形壺形土器、打製石斧などが出土しており、土器には粉殻痕が認められている。また、寺床遺跡からは、弥生時代前期・中期の竪穴住居跡が確認されている。弥生時代終末になると、大木権現山1号基などの墳丘墓が造られるようになる。

縄文時代・弥生時代とともに上記のような遺跡が存在するものの、古墳時代以降に比べると確認されている遺跡数は



第1図 東出雲町の位置

少なく、その性格も明らかにされていないものも多い。

**古墳時代** 古墳時代に入ると平野に面した丘陵上を中心、古墳が造営されるようになる。古墳時代前期のものとしては、内行花文鏡が出上した古城山2号墳、鏡などの豊富な副葬品をもつ床構造の大形墓壙が検出された、寺床1号墳が知られている。中期になると大木樺原山2号墳、春日岩舟古墳などが造られる。春日岩舟古墳は、地山岩盤を舟形に穿って造られた主体部をもつ古墳である。後期に入ると更に多くの古墳が造営される。石棺式石室を有する栗坪古墳群、箱式石棺の存在が報告されている焼田古墳群、金成山古墳などが造られる一方で、四注式家形を呈する内馬池横穴群や、古城山横穴群、高井横穴群、赤坂池横穴群、古廻横穴などの横穴墓も丘陵斜面に盛んに築かれるようになる。

この時代の遺跡には、古墳・横穴墓の他、栗坪遺跡、焼田遺跡のように土器を伴う住居跡が確認されているものもみられる。また、須恵器の窯跡である古屋窯跡も確認されており、人々の盛んな生活の様子をうかがうことができる。

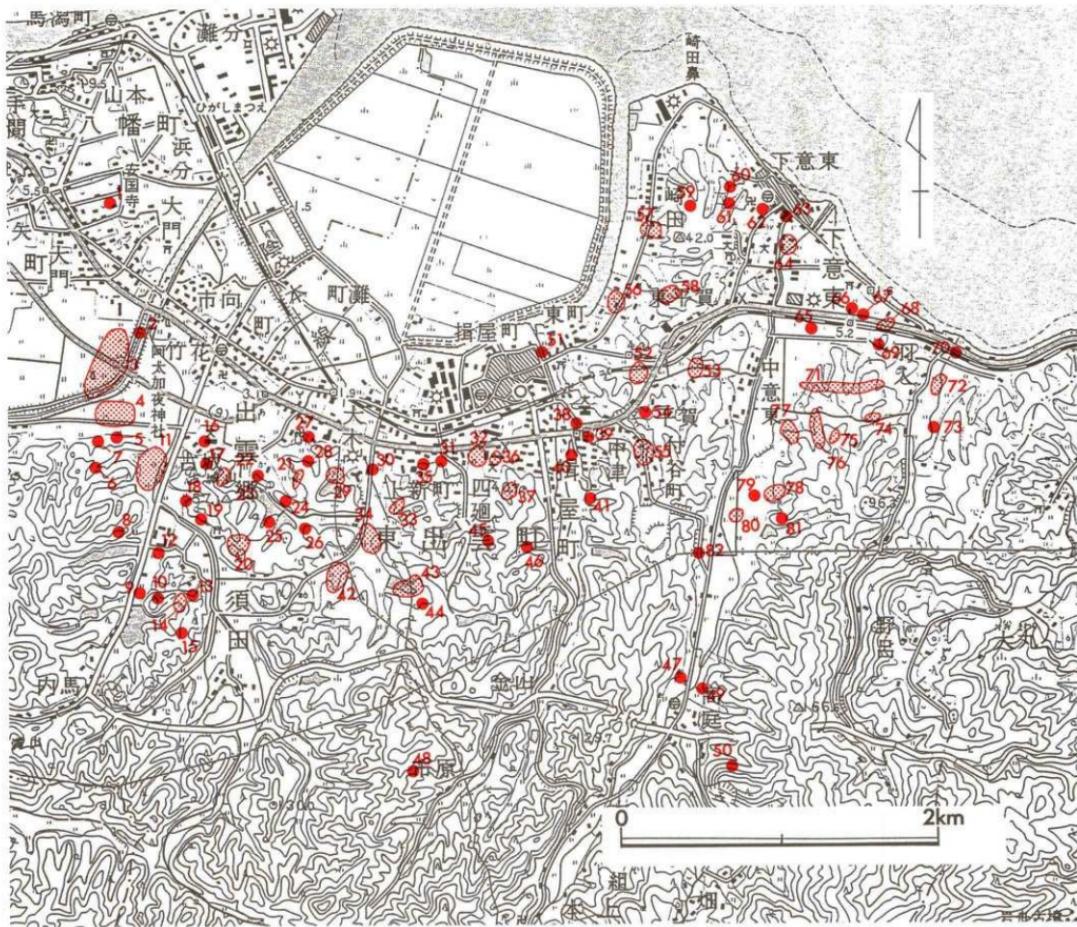
**奈良時代～平安時代** 意宇川沿いに、条里制が敷かれていたことが現在でも航空写真より推定される。意宇平野には国庁、出雲国分寺、国分尼寺（松江市）などが設置されており、これに臨接する出雲郷地区が出雲国の政治的中心地と深くかかわっていた様子がうかがえる。

**鎌倉時代～室町時代** 東出雲町の城跡は、出雲郷の春日城跡、古城山城跡、上意東の京羅木山城跡、福良城跡などが知られている。春日城跡は現在も本丸・出丸・空堀が残っており、下河原氏が尼子氏と激しい攻防を繰り広げた末、落城した城である。古城山城跡には井戸・郭などが残っており、当時、砦として利用されていたものであろう。京羅木山城跡からは、広瀬町の月山富田城を一望することができ、毛利氏が尼子氏を攻める際に重要な城であったと考えられる。福良城跡には急峻な山腹に郭が設けられている。この城は佐間左衛門人道の拠城と言われているところで、ここもまた、尼子氏と毛利氏との重要な攻防の地となっている。

参考文献 島根県教育委員会『一般国道9号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ』

1991・3

東出雲町教育委員会『東出雲町の遺跡』1988・3



第2図 周辺の遺跡（図中番号は第1表に対応）

第1表 周辺の遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名        | 備考     | 番号 | 遺跡名       | 備考   |
|----|------------|--------|----|-----------|------|
| 1  | 安国寺古墓      | 古墓     | 43 | 渋山池南遺跡    | 散布地  |
| 2  | 阿太加夜神社境内遺跡 | 集落跡    | 44 | 渋山池南古墳群   | 古墳群  |
| 3  | 意宇平野条理制遺構  | 条里制    | 45 | 大鳥才ノ神遺跡   | オノ神  |
| 4  | 春日遺跡       | 散在地    | 46 | 東西畠遺跡     | 散布地  |
| 5  | 鳥越古墳       | 古墳     | 47 | 高庭跡塚      | 経塚   |
| 6  | 以下谷池北岸遺跡   | 散布地    | 48 | 市ノ原神社古墳群  | 古墳群  |
| 7  | 姫津古墳群      | 古墳群    | 49 | 古屋窯跡      | 窯跡   |
| 8  | 以下古墳       | 古墳     | 50 | 福良城跡      | 城跡   |
| 9  | 城山城跡       | 城跡     | 51 | 福屋神社古墳    | 古墳   |
| 10 | 内馬池横穴群     | 横穴群    | 52 | 平賀遺跡      | 祭祀遺跡 |
| 11 | 竹の花上遺跡     | 散布地    | 53 | 平賀日古墳     | 古墳   |
| 12 | 朱坪古墳群      | 古墳群    | 54 | 黄泉谷古墳     | 古墳   |
| 13 | 栗坪遺跡       | 住居跡    | 55 | 附谷遺跡      | 散布地  |
| 14 | 栗坪B古墳群     | 古墳群    | 56 | 崎田遺跡      | 散布地  |
| 15 | 戸田屋敷横穴群    | 横穴群    | 57 | 崎田古墳群     | 古墳群  |
| 16 | 古城山横穴群     | 横穴群    | 58 | 神子谷遺跡     | 散布地  |
| 17 | 古城山古墳群     | 古墳群    | 59 | 深田上古墳     | 古墳   |
| 18 | 赤劍遺跡       | 散布地    | 60 | 鳩峰山焼窯跡    | 窯跡   |
| 19 | 須田神社境内遺跡   | 住居跡    | 61 | 永鳥窯跡      | 窯跡   |
| 20 | 荷延古墳群      | 古墳群    | 62 | 永島(長通し)窯跡 | 窯跡   |
| 21 | 鳥田池横穴群     | 横穴群    | 63 | 石櫻窯跡      | 窯跡   |
| 22 | 古城山遺跡      | 散布地    | 64 | 磯近遺跡      | 散布地  |
| 23 | 後谷池古墳      | 古墳     | 65 | まろつか古墳    | 古墳   |
| 24 | 後谷池東古墳     | 古墳     | 66 | 金成山焼窯跡    | 窯跡   |
| 25 | 後谷窯跡       | 窯跡     | 67 | 金成山古墳     | 古墳   |
| 26 | 大畠遺跡       | 散布地    | 68 | 岩屋古墳群     | 古墳群  |
| 27 | 大木権現山古墳群   | 古墳群    | 69 | 荒神ノ上古墳    | 古墳   |
| 28 | 島田池古墳      | 古墳     | 70 | 中尾崎遺跡     | 散布地  |
| 29 | 寺床遺跡       | 古墳 住居跡 | 71 | 七神古墳群     | 古墳群  |
| 30 | 堀谷古墳群      | 古墳群    | 72 | 惣前山古墳跡    | 古墳群  |
| 31 | 屋台垣横穴      | 横穴     | 73 | 中尾崎窯跡     | 窯跡   |
| 32 | 東出雲小学校校庭遺跡 | 散布地    | 74 | 丸谷池上遺跡    | 散布地  |
| 33 | 赤坂池横穴群     | 横穴群    | 75 | 焼田遺跡      | 住居跡  |
| 34 | 波山池古墳群     | 古墳群    | 76 | 焼田古墳群     | 古墳群  |
| 35 | 古越横穴       | 横穴     | 77 | 油免古墳群     | 古墳群  |
| 36 | 東出雲小学校東側遺跡 | 散布地    | 78 | 雉子谷古墳群    | 古墳群  |
| 37 | 五反田遺跡      | 散布地    | 79 | 雉子谷横穴群    | 横穴群  |
| 38 | 五反田横穴      | 横穴     | 80 | 延了寺遺跡     | 住居跡  |
| 39 | 中津横穴群      | 横穴群    | 81 | 兄ヶ平古墳     | 古墳   |
| 40 | 高井横穴群      | 横穴群    | 82 | 音木遺跡      | 散布地  |
| 41 | 五反田1号墳     | 古墳     |    |           |      |
| 42 | 安埴古墳群      | 古墳群    |    |           |      |

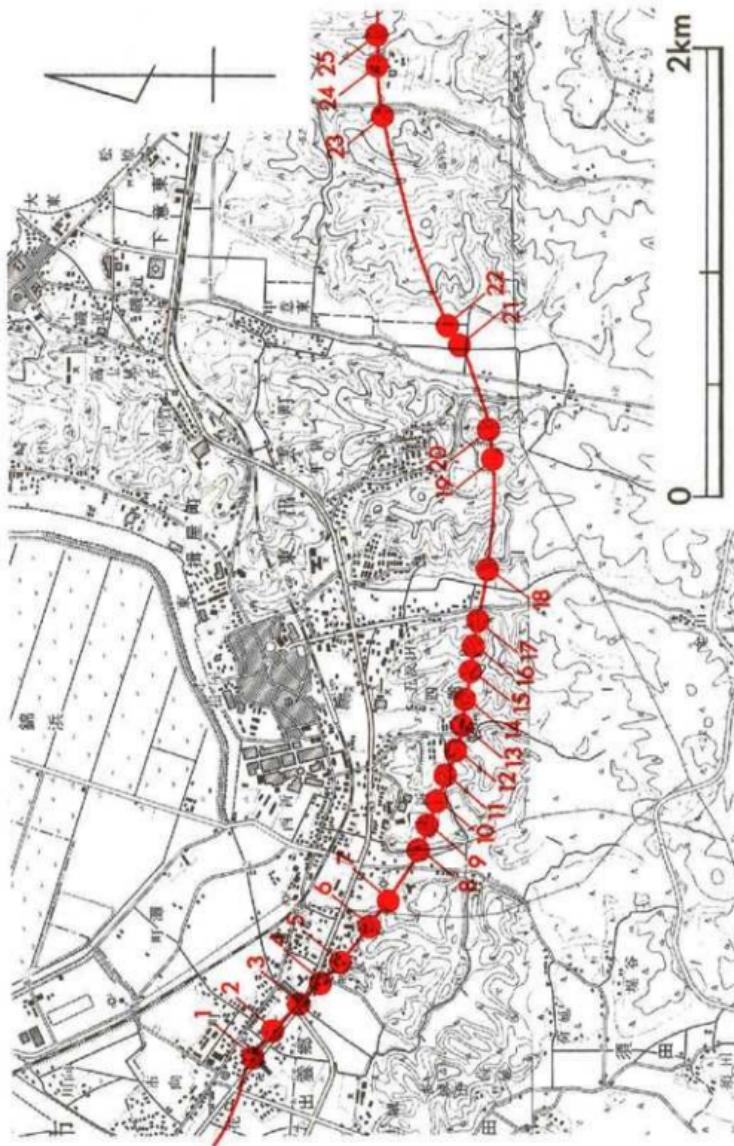
## II 調査に至る経緯と経過

昭和47年5月26日付けで建設省松江国道工事事務所から県教育委員会あて国道9号のバイパス建設の基本設計資料作成のため、安来市吉佐町から松江市乃白町に至る30.3km区間における埋蔵文化財の有無について照会があった。これを受けて、県教育委員会では昭和47年と昭和48年に分布調査を実施した。この結果をふまえてルート案が作成され、昭和50年度と昭和51年度に一部の発掘調査を実施した。

第2表 調査工程表

| 番号 | 遺跡名    | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----|--------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 1  | 恵比須遺跡  |    |    | ■  |    |    |    |     |     |     |
| 2  | 鷦鷯遺跡   |    | ■  |    |    |    |    |     |     |     |
| 3  | 岸尾遺跡   |    |    | ■  |    |    |    |     |     |     |
| 4  | 島田池古墳群 |    |    |    | ■  | ■  |    |     |     |     |
| 5  | 島田遺跡   |    |    |    |    |    | ■  |     |     |     |
| 6  | 長廻遺跡   |    |    |    |    |    | ■  |     |     |     |
| 7  | 長廻古墳群  |    |    |    |    |    |    | ■   |     |     |
| 8  | 淡山池古墳群 |    |    |    |    |    |    | ■   |     |     |
| 9  | 淡山池遺跡  |    |    |    |    |    |    |     | ■   |     |
| 10 | 原ノ前遺跡  |    |    |    |    |    |    |     |     |     |
| 11 | 四ツ廻Ⅱ遺跡 |    |    |    |    |    |    |     |     |     |
| 12 | 四ツ廻Ⅰ遺跡 |    |    |    |    |    |    |     | ■   |     |
| 13 | 大鳥遺跡   |    |    |    |    |    |    |     |     |     |
| 14 | 林廻り古墳  |    |    |    |    |    | ■  |     |     |     |
| 15 | 勝負遺跡   |    |    |    |    | ■  | ■  |     |     |     |
| 16 | 堂床古墳   |    |    |    |    | ■  |    |     |     |     |
| 17 | 堂床遺跡   |    |    |    |    | ■  |    |     |     |     |
| 18 | 受馬遺跡   |    |    |    |    | ■  |    |     |     | ■   |
| 19 | 毛無遺跡   |    |    |    | ■  |    |    |     |     |     |
| 20 | 毛無古墳   |    |    |    | ■  |    |    |     |     |     |
| 21 | 土元遺跡   |    |    | ■  |    |    |    |     |     |     |
| 22 | 御崎谷遺跡  |    | ■  | ■  |    |    |    |     |     |     |
| 23 | 清水遺跡   |    |    | ■  | ■  |    |    |     |     |     |
| 24 | 巻林遺跡   |    |    |    |    | ■  |    |     |     |     |
| 25 | 巻林横穴   |    |    |    |    | ■  |    |     |     |     |

第3図 ルート予定地と調査を実施した道路(図中の番号は第3表に対応)



第3表 調査を実施した遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名    | 遺構の概要         | 遺物の概要                            |
|----|--------|---------------|----------------------------------|
| 1  | 恵比須遺跡  |               | 須恵器（奈良時代）                        |
| 2  | 鶴賀遺跡   | 上墳（時期不明）      | 弥生土器（中期）、黒曜石、須恵器、上師管上器           |
| 3  | 岸尾遺跡   | 土壤、溝状遺構（時期不明） | 黒曜石、土師質上器、須恵器（奈良時代）              |
| 4  | 鳥田池古墳群 | 横穴墓、土壤墓地      | 須恵器（古墳時代後期）、铁器、古墳土質質上器、土師器       |
| 5  | 鳥田遺跡   | 土壤墓、ピット       | 須恵器、陶磁器、土人形                      |
| 6  | 長畠遺跡   |               | 須恵器（古墳時代後期）                      |
| 7  | 長畠古墳群  |               | 石斧、石器                            |
| 8  | 洪山池古墳群 | 古墳、横穴墓        | 須恵器（古墳時代中期～後期）                   |
| 9  | 洪山池遺跡  | ピット、溝状遺構      | 須恵器（古墳時代～平安時代）、土器、土製支脚、砾石、鉄津     |
| 10 | 原ノ前遺跡  | 堅穴住居跡、玉作工房跡   | 弥生土器（後期後半）、土師器（古墳時代中期）、須恵器、呂下、馬糞 |
| 11 | 四ツ廻Ⅱ遺跡 | 玉作工房跡         | 須恵器、土師器（古墳時代中期～後期）勾土朱製品（呂下、馬糞）   |
| 12 | 四ツ廻Ⅰ遺跡 |               | 土師器（古墳時代前期）                      |
| 13 | 大島遺跡   |               | 土師器片（古墳時代前期）                     |
| 14 | 林福寺遺跡  | 住居跡           | 須恵器（奈良時代）、土師器、玉米製品（水晶など）         |
| 15 | 勝負遺跡   | 住居跡、焼土壙       | 須恵器、土師器（古墳時代中期～奈良時代）、土製支脚、団形土製品  |
| 16 | 堂床古墳   | 古墳            | 須恵器片                             |
| 17 | 空床遺跡   |               | 土師質土器                            |
| 18 | 愛馬遺跡   |               |                                  |
| 19 | 毛無遺跡   |               | 須恵器片                             |
| 20 | 毛無古墳   |               | 須恵器片                             |
| 21 | 土元遺跡   |               | 須恵器片（表採）                         |
| 22 | 御崎谷遺跡  | 焼土壙、溝状遺構、ピット  | 須恵器、土師器（古墳時代～奈良、平安時代）            |
| 23 | 浦水遺跡   | 溝状遺構          | 須恵器（古墳時代～）                       |
| 24 | 巻林遺跡   | 焼土壙、土壤（性格不明）  | 須恵器（古墳時代～）                       |
| 25 | 慈林機穴   |               |                                  |

昭和61年度になると安来市鳥田町から岡市赤江町に至る延長6.9km区間が「安来バイパス」として事業化されたが、昭和63年度には高規格幹線道路（自動車専用道路）に計画変更され延長18.7kmの「安来道路」として実施されることとなった。

この計画変更に伴い予定ルートも変更になったため、昭和62年度と昭和63年度に再度分布調査を実施し、1-2・2-1工区の延長6.9km区間の発掘調査を平成元年度から開始した。この区間にについては、インターチェンジ予定地の一部を除き平成4年度で現地調査がほぼ終了した。

また、平成4年度からは安来市荒島町から八束郡東川雲町川雲郷に至る2-2工区（延長8.0km区間）についても発掘調査を実施することとなった。1-2・2-1工区（延長6.9km区間）に対しこの8.0km区間を「安来道路西地区」、1-1工区（延長3.8km）を「安来道路東地区」と呼称することにした。

「安米道路西地区」では、今年度は東出雲町内を対象とし、御崎谷遺跡、土元遺跡、清水遺跡の発掘調査と町内の22遺跡のトレンチ調査を実施した。

4月14日に土元・御崎谷・清水遺跡の地形測量について現地で打合せを行い、調査が始まった。同月27日・28日には御崎谷遺跡の重機による表土掘削を実施し、連休明けの5月7日から本格的に作業員による発掘作業を開始した。

今年度調査予定地の西端に位置する恵比須遺跡と、意東トンネルの坑口予定地に位置する御崎谷遺跡の発掘調査から開始した。1班は西から東に向かってトレンチ調査を進め、もう1班は土元・御崎谷・清水遺跡の発掘調査を終了後、東から西に向かってトレンチ調査を進めて行った。以後、立木の伐採状況や作業員の移動計画を考慮し、第2表のように順次調査を進め、12月18日に現地作業を終了した。



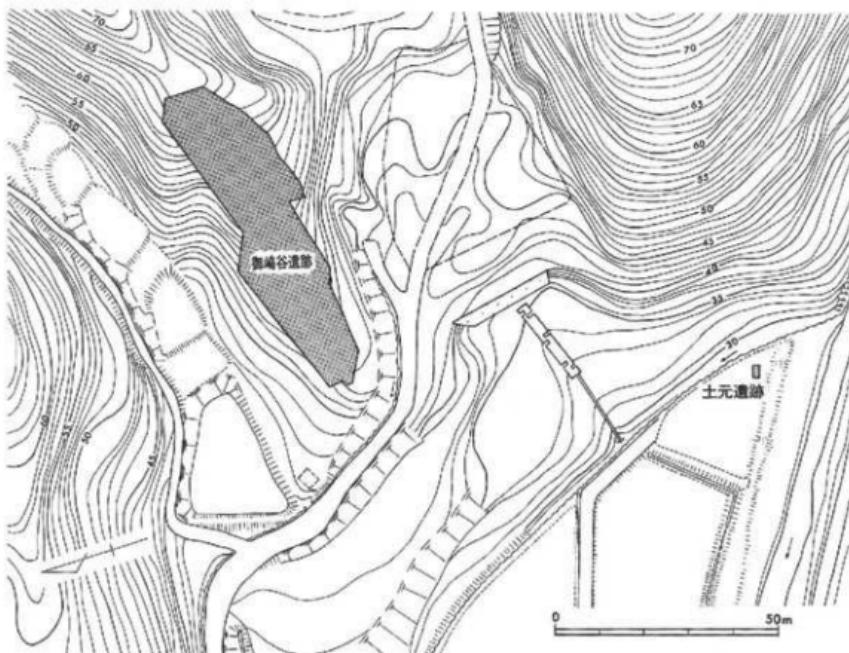
写真1 調査風景

### III 調査の概要

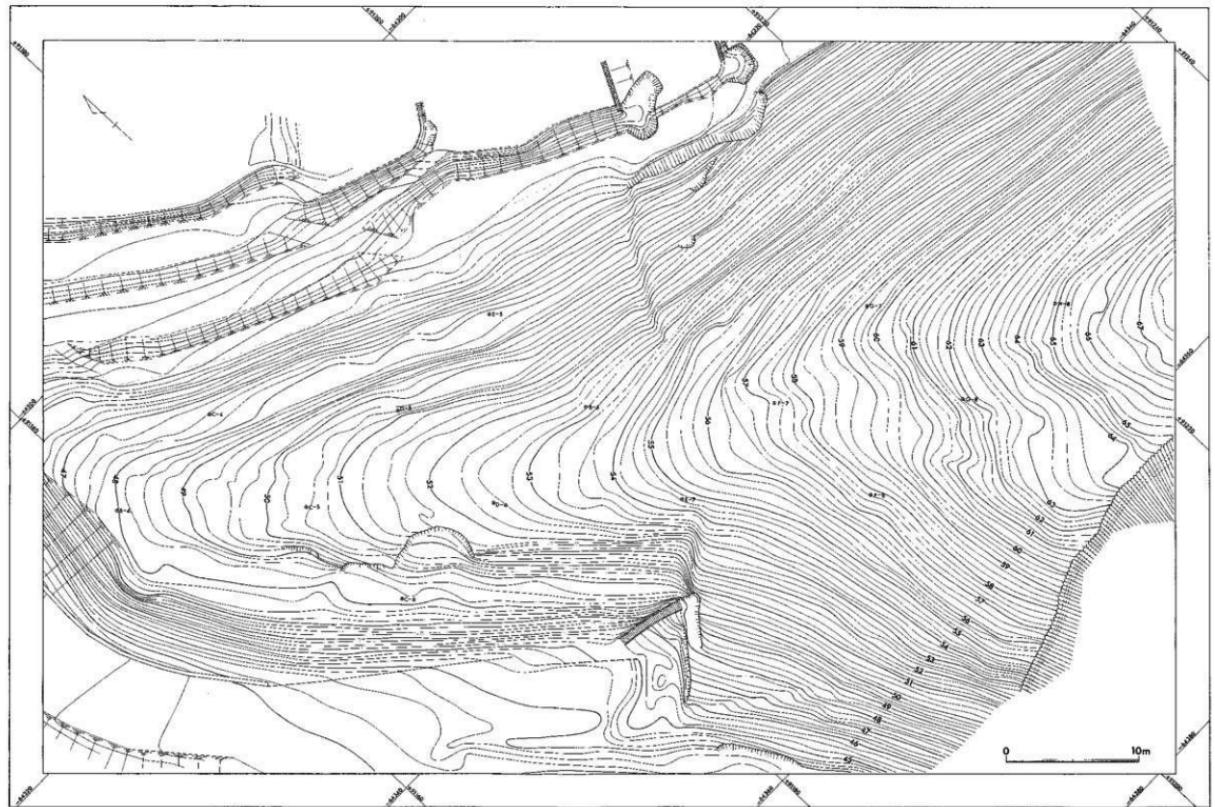
#### 1. 御崎谷遺跡

東出雲町下意東字御崎谷に所在する。中海に向かって延びる丘陵の西側、舌状に短く派生した低丘陵上、標高約50m～65mに立地し、西側には星上山に源を発する意東川の両岸に形成された意東平野が狭長ながら広がっており、水田地として利用されている。調査区は水田との比高差が最小で20m程の位置にあり、調査前より人為的な地形の改変を受けている事が予想されていた。

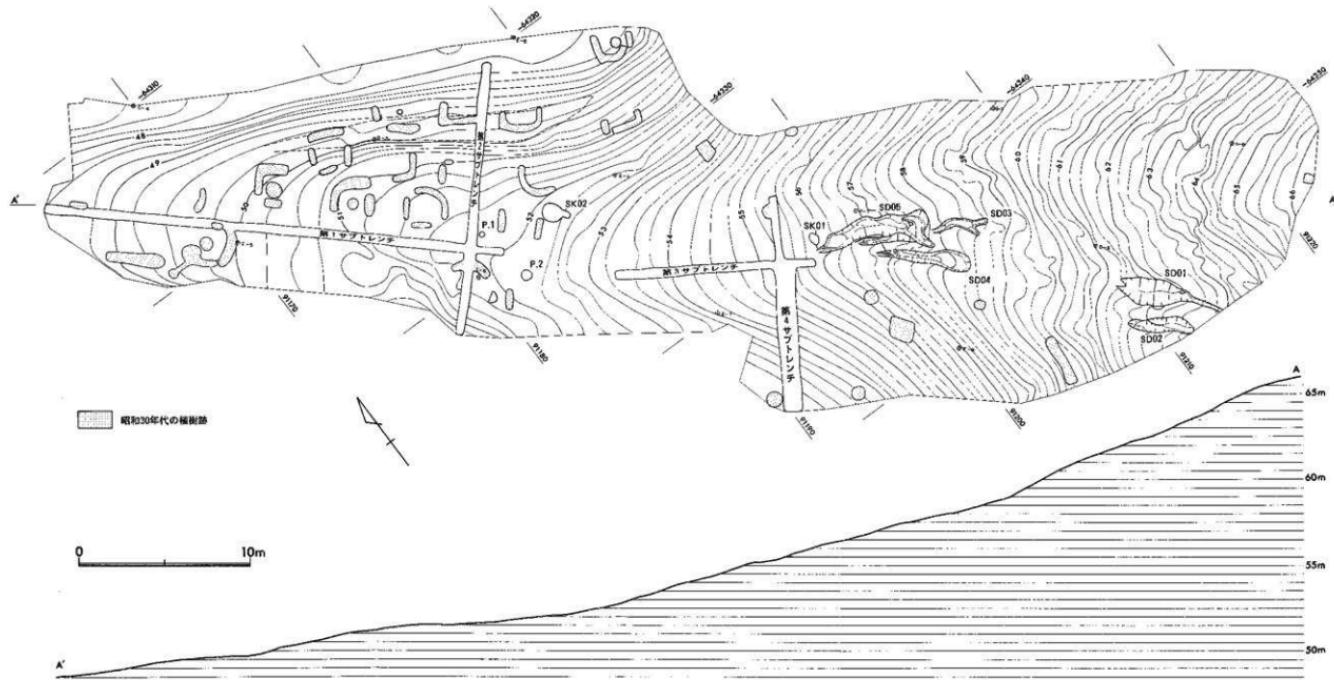
調査では、尾根上において地山を浅くV字状に掘り込んだ溝5条（SD 01～05）と、炭を内包し焼けた痕跡を残す浅い楕円形の土壙2基（SK 01・02）と、ピット2基（P 1・2）を検出した。調査区のほぼ中央で尾根の傾斜が変化していて、傾斜がより緩やかになった尾根先端付近には、昭和30年代の果樹の植樹痕が整然と掘り込まれているなど、遺構は既に大きく削平されてお



第4図 御崎谷遺跡・土元遺跡調査区位置図



第5圖 衛崎谷遺跡調査前地形測量図



第6図 御崎谷遺跡全体図

り、遺跡の性格等は明らかにできなかった。また、何れの遺構も遺物を伴っていないため、時期は不明であった。

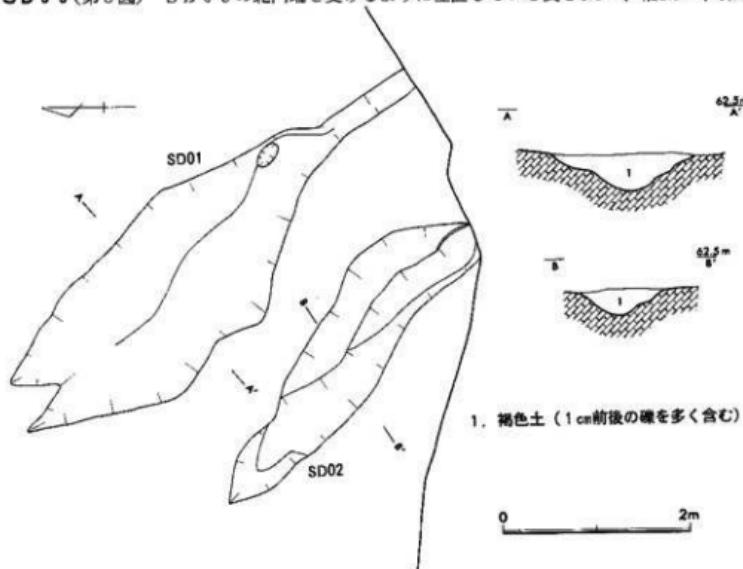
**SD 01(第7図)** 調査区の南西端の標高62.5m~61mに位置し、尾根筋に沿う方向に延び、一端は調査区外に続いているとみられる。検出できた範囲では長さ5.4m、深さ20cm~30cmのV字状を呈する溝であり、幅は南東端から約1mの地点まで25cmであったものが、急激に広がり最大で1.5mまで拡大する。覆土は褐色土で1cm程の小円礫を多く含んでいる。

**SD 02(第7図)** SD 01の南西側にはほぼ平行して位置しており、長さ4mのV字状に掘り込まれた溝である。幅は南東端でやや細くなる様相を見せており、SD 01と同様に、急激に幅が変化するかどうかは不明である。覆土は褐色土で小円礫を多く含んでいる。

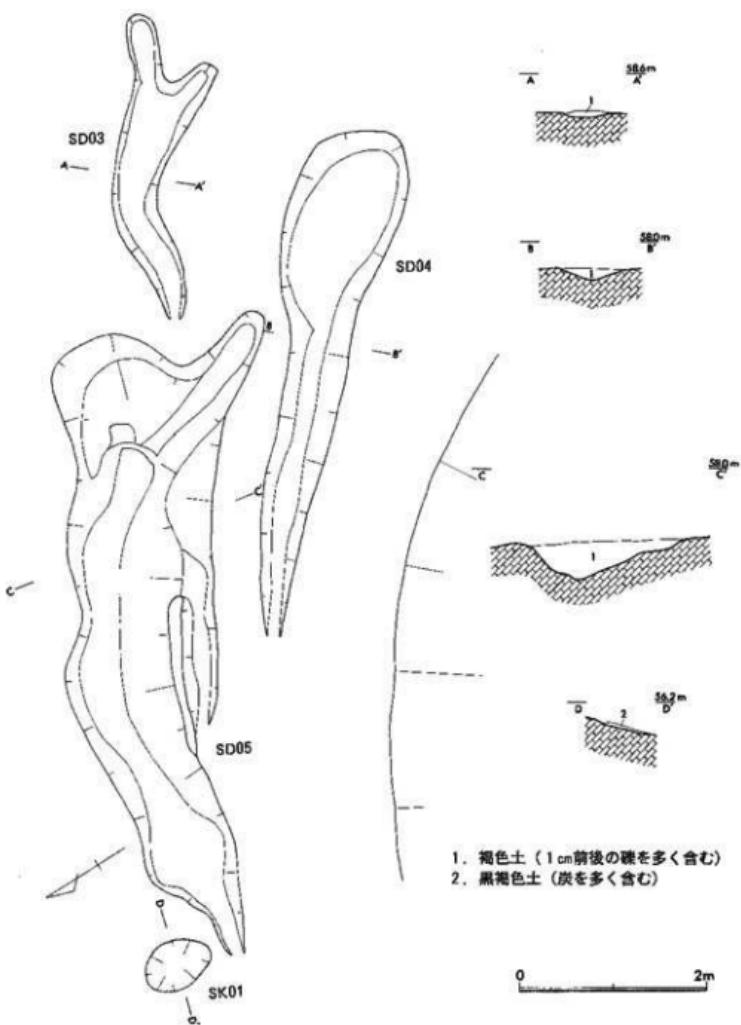
**SD 03(第8図)** 調査区のほぼ中央の傾斜変換点よりやや高位の標高約58mに位置する。尾根筋に沿う方向に延び、長さ3.8m、南東端では二方向に分かれる幅60cmの浅い溝である。

**SD 04(第8図)** SD 03の西側にはほぼ平行して位置する。中程で形が大きく変化しており、北半は短径1.2mの楕円形を呈しており、南半は幅60cm深さ12cmの直線的な形を呈する長さ5.5mの溝である。

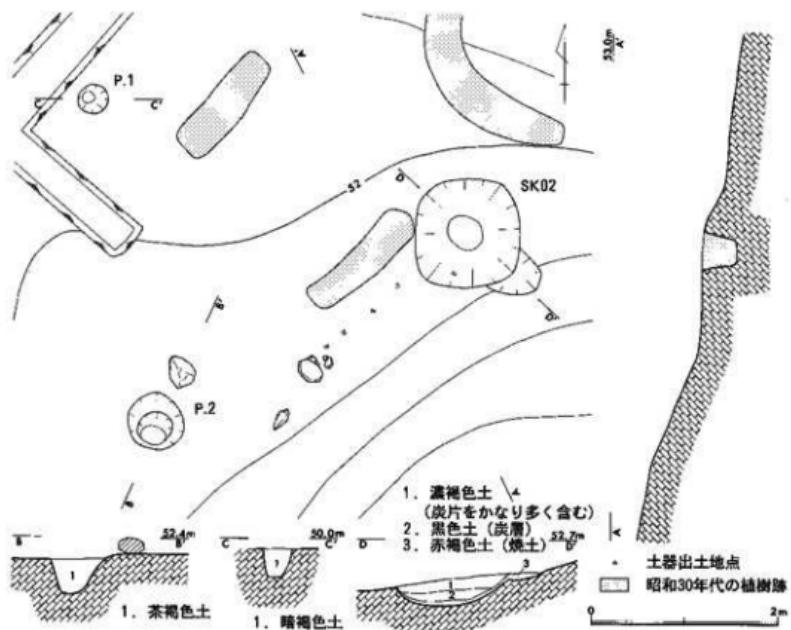
**SD 05(第8図)** SD 03の北西端を受けるように位置している長さ6.8m、幅1.9m、深さ40



第7図 SD 01・02実測図



第8図 SD03・04・05、SK01実測図



第9図 SK02、P.1・2と土器出土状況

cmの溝でありこれらの中では最大である。

なお、SD03・04・05の覆土は同様で、褐色土で小円礫を含んでいる。また、遺物は伴っておらず、時期は不明である。

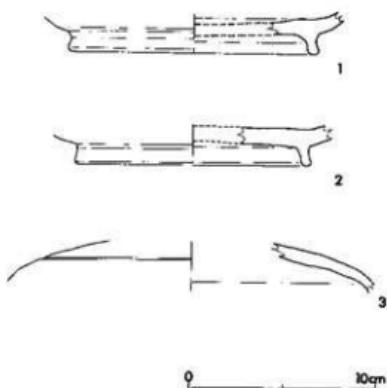
**SK01(第8図)** SD05の北西端、標高56mに位置する。地山を円形にわずかに凹ませ、表面は赤く火を受けた跡があり、炭が7cm堆積している。遺物は伴っていない。

**SK02(第9図)** 尾根上の傾斜変換点付近、標高52mに位置する。直径1.2m、深さ28cmの浅い円錐形を呈する上槽であり、SK01と同様に表面は赤く焼け、約10cmの炭が堆積している。南東側には、部分的に焼土面の広がりが見られる。焼土面は、中央部に凹凸があるが、なにに起因するものかは不明であった。覆土中から遺物は見られなかった。

**P.1・2(第9図)** SK02の西側にある直径60cm~40cmの不整形のビットである。深さは約30cmで地山面から掘り込まれている。覆土は緻密な黄褐色土で小片の炭を稀に混入している。

#### 出土土器について(第10・11図、図版2-3)

SK02とP.1・2と近接して地山面から土器が出上している(第10図)。これらはいずれも小片で崩壊しており、後世の開墾などによって混入した可能性が強い。1・2は高台の付く須恵器の皿

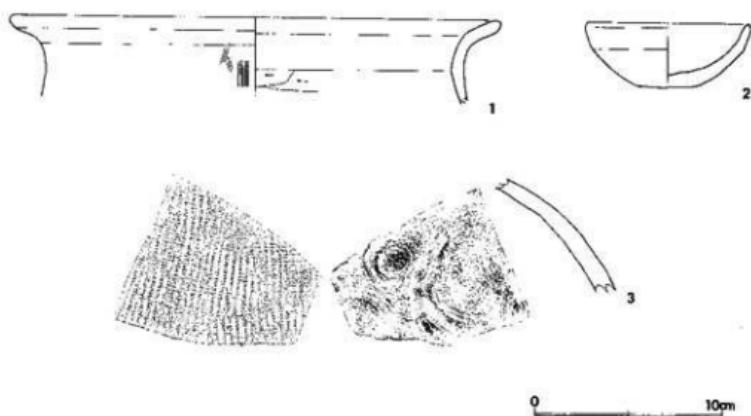


第10図 SK 02周辺出土土器実測図

で両者とも胎土に砂粒を多く含む。色調は淡黄灰色を呈し、焼成が悪く、かなりもろい。底部は横ナデ仕上げによるものである。3は須恵器の長颈壺の肩部であると思われる。胎土は密で、焼成も良好であり色調は青灰色を呈する。

その他、調査区内の表土層などから少量の遺物が採集されている(第11図)。1は土師壺の壺の口縁部で、頸部以下内面にはヘラケズリが認められる。2は土師器の小型の壺状のものと思われる器壁の調整やつくりは、かなり粗雑である。3は須恵器の壺片である。

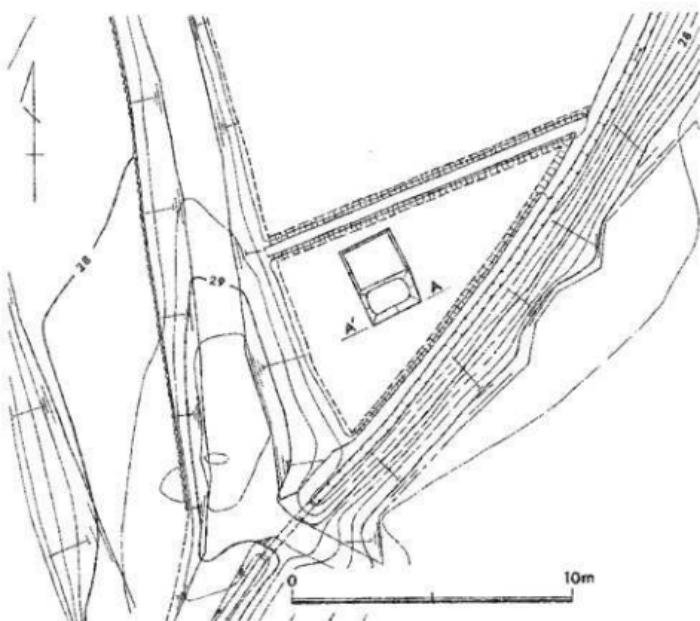
これらの時期は概ね8世紀前半から9世紀前半と考えられる。



第11図 その他の出土土器実測図

## 2. 土元遺跡

東出雲町下意東字上元に所在する。御崎谷遺跡のある丘陵の内側の水田地に位置し、標高は約28mである。意東川の右岸にあたる。調査は、1.5m×2mの調査区を設定し実施した。現水田層の下層は、砂礫や河原疊で構成される層が厚く堆積しており、この層から遺物は全く見られなかっ



第12図 土元遺跡全体図



第13図 土元遺跡南壁土層図

た。また湧水が著しく、約1.2m掘り下げたところで停止せざるを得なかった。調査区付近は意東川が丘陵にぶつかり大きく蛇行する地点であり、この川の氾濫原である可能性が高く、この堆積状況も氾濫作用によるものであると思われる。

遺物は以前須恵器の小片が表採されているが、摩滅が著しく二次的な流れ込みである可能性が強い。今回の調査では遺物は出土していない。

### 3. 清水遺跡

東出雲町下意東字高清水に所在する。御崎谷遺跡・土元遺跡のある平野とは、南北に延びる丘陵を隔てた東側にあり、この南北に延びる丘陵に挟まれた狭長な谷間の水田地に位置している。調査区は羽入川右岸の、標高約29~30mの地点である。なおこの一帯は、昭和60年頃圃場整備が行われており、これにより水田区画や水路などは大きく変化している。

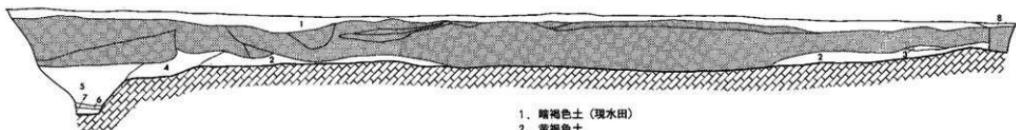
調査は、調査区を現水田面の高低差にあわせてI区・II区に分けて実施した。以前II区にあたる水田において須恵器片が表採されたが、今回の調査で遺物が出土したのは、現水田層～圃場整備時の盛土層のみであり、遺物を伴った明瞭な遺構は検出できなかった。他に遺物を伴わず性格不明で



第14図 清水遺跡調査区位置図

A I区 北壁

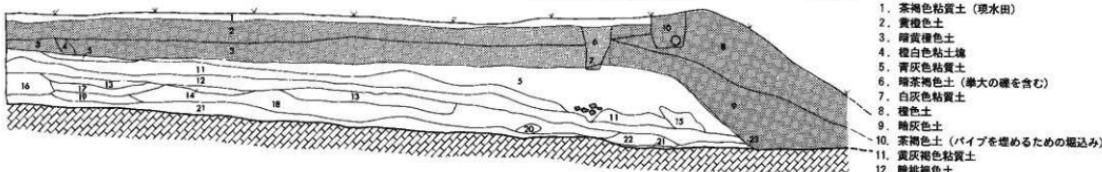
A' 295m



※アミ部分は圃場整備時の盛土層

B II区 西壁

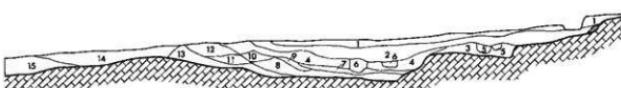
B' 31.5m



※アミ部分は圃場整備時の盛土層

C II区 東西サブトレーン北壁

C' 31.0m

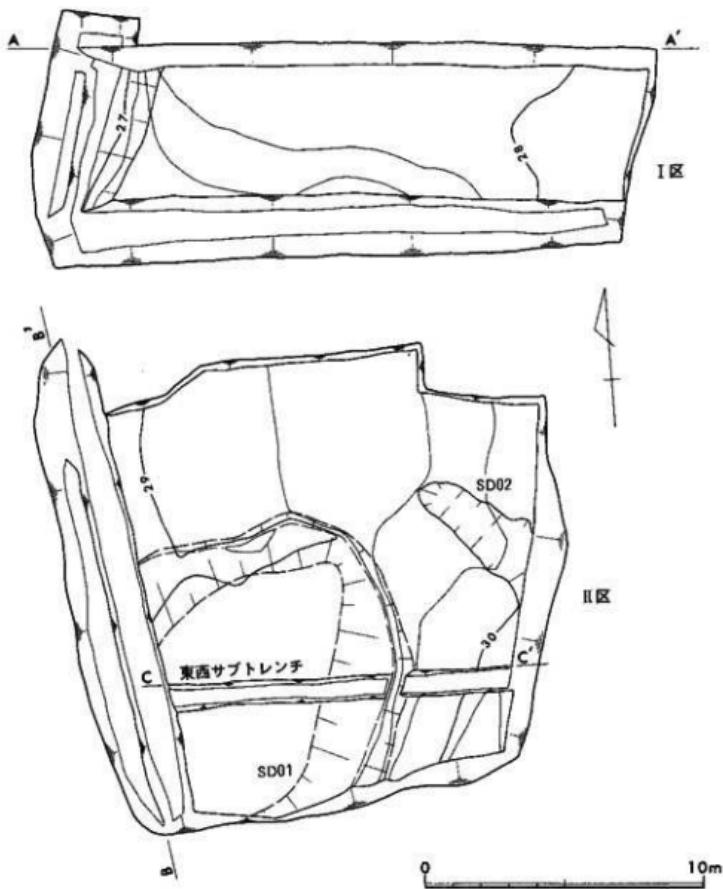


1. 黑褐色土
2. 茶褐色土
3. 黄茶褐色粘質土
4. 黑褐色粘質土
5. 黄茶褐色土
6. 茶褐色土
7. 灰褐色粘質土
8. 茶褐色土(5cm以内の巣を含む)

9. 黄褐色粘質土
10. 黄褐色土(1cm未満の小巣を含む)
11. 硫色土
12. 硫色土(2~5cmの巣を含む)
13. 茶褐色土(1cm以内の巣を帯びる)
14. 黑黑灰色土
15. 黑褐色土

0 4m

第15図 清水遺跡土層図



第16図 清水遺跡全体図

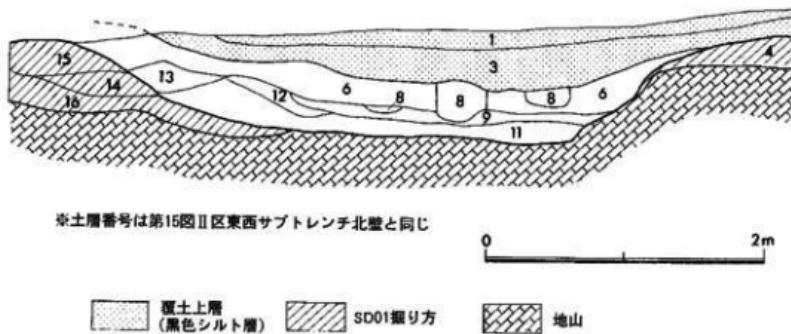
ではあるがII区において溝状遺構（SD01・2）2条を検出した。

### I区

対象地の北半部分であり、現水面は標高約29mである。現在の水田層の下層には圃場整備による盛土が厚くみられ、また旧水田層や地山もかなり削平を受けており、明確な遺構は検出できなかった。調査区西端付近では、盛土の下層、現水面から1.2m下で、地山を加工し、若干盛土を施して造った面に、大きさ・形態とも不規則な自然石を2～3段積み上げた石組列を伴うL字状の施設を検出した。この施設によって区画された西側部分では、より低いレベルで青灰色や黄灰色の旧水



第17図 SD 01 実測図



第18図 SD01 土層堆積状況

田畠が確認されており、また石組列は圃場整備以前の水田の区画線（畦）とも一致することから、この施設は旧水田区画に伴うものであると思われる。遺物は、現水田畠と圃場整備時の盛土層から須恵器甕片（第20図、図版4-3）が出土している。

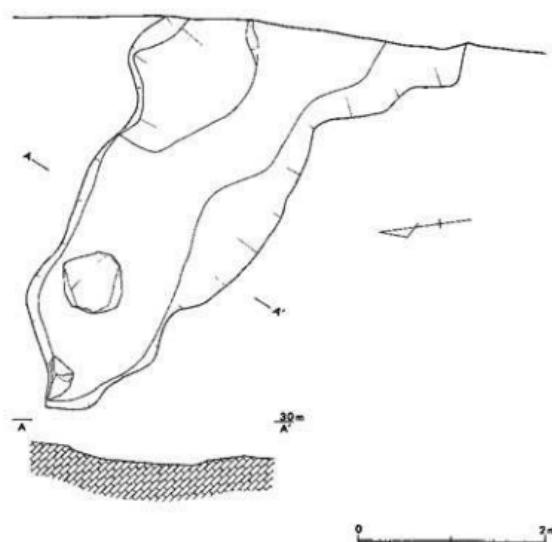
## II区

1区の南側、より高い位置にある水田部分（標高約31m）である。もとはI区の一部と合わせて一区画の水出であったらしく、圃場整備時の盛土量は位置によってかなり差がみられる。調査区内で上層の堆積状況が場所により異なった様相を呈しているなかで、ほぼ全面共通しているのは、盛土直下の黄灰色の旧水田層、間に円礫や砂砾を多く含む層をへて見られる、黒褐色あるいは茶褐色の小礫を混入しないよくしまったシルト層である。このように単一でない上層堆積状況は、隣接する羽入川の流路の変化や水位の変化に伴ったものであると思われる。

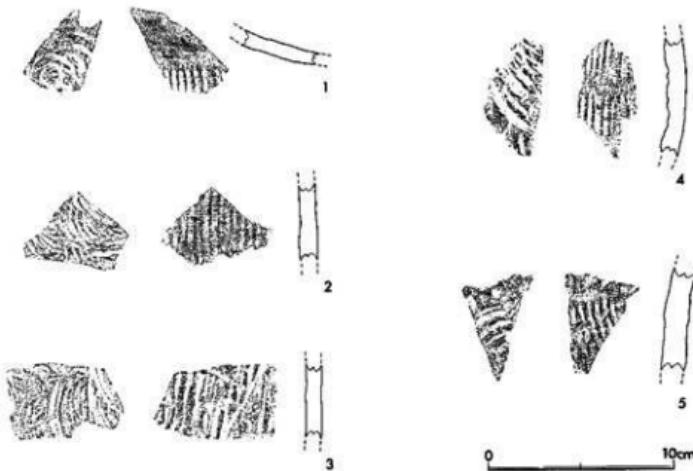
シルト層の下層で、溝状遺構（SD01・02）2条を検出したが、いずれも掘り方が明瞭でなく、形態や規模に規則性が認められることより、これらは自然流路である可能性が高い。SD01（第17図）は円形を描くように大きく蛇行するもので、東西サブレンチの南側で最大規模の幅約2m、深さ約40cmを計測できる。SD02（第19図）は調査区東端で一部のみ検出した。これらの覆土は同一遺構内であっても部分によって堆積状況が異なる。第18図のように上層のシルト層と下層とに分けられる場合と、シルト層のみの場合がある。いずれも遺物は出土していない。

遺物はI区と同様に、現水田脇～圃場整備時盛土層において出土している。これららの遺物と検出したSD 01・02とは間隔が厚く、出土状況からみても関連があるとは考え難く、二次的な混入である可能性が高い。

註1 東山雲町土地改良区より圃場整備にかかる資料の提供を受けた。



第19図 SD 02 実測図



第20図 出土土器実測図

### 3. トレンチ調査箇所

#### (1) 恵比須遺跡

所在地 東山雲町出雲輝字恵比須

立地 町の西端に位置し、現況は水田であり西に須田川を望む。

概要 2本のトレンチを設定し、発掘調査を行った。第1トレンチ西側において黄褐色砂層まで掘り下げたところ黒色砂層の落込みが認められた。性格、広がりの確認のために北側に新たに第2トレンチを設定した。各トレンチの状況より

遺構とは考え難く汀線と推定される。遺物は若干出土しているが、小片で、磨耗が激しい。

第1トレンチより陶磁器、弥生土器片が出土し、第2トレンチより須恵器環(第21図1)が出土している。遺物はすべて3層(黒色粘質土層)より出土している。

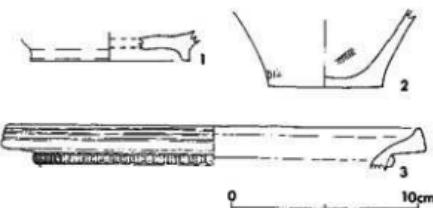
#### (2) 鶴賀遺跡

所在地 東出雲町出雲輝字深田

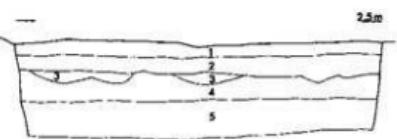
立地 現況は水田で前述の恵比須遺跡の東に位置する。

概要 計7本のトレンチを設定し、発掘調査を行った。各トレンチの土層は若干の相違はあるが黒褐色砂質土層—黒色粘質土層—砂層—青灰色シルト層の順に堆積している。調査は青灰色シルト層を検出したことで停止している。遺物は黒色粘質土層を中心に検出され、黒褐色砂質土層においても若干出土している。遺構は第2トレンチにおいて土壤が1基検出されている。遺物は第3トレンチを中心として第1トレンチ以外のトレンチから出土している。弥生土器の小片がほとんどを占め、陶磁器、須恵器、黒曜石の剥片が若干出土している。土器は形を成すものがほとんど存在せず、詳細な時期は分からぬが、第3トレンチ出土の弥生土器の壺(第21図3)は、口縁部に3状のヘラがき沈線を持ち、頸部に指頭圧痕文帯を巡らすといった特徴から中期に位置付けられる。

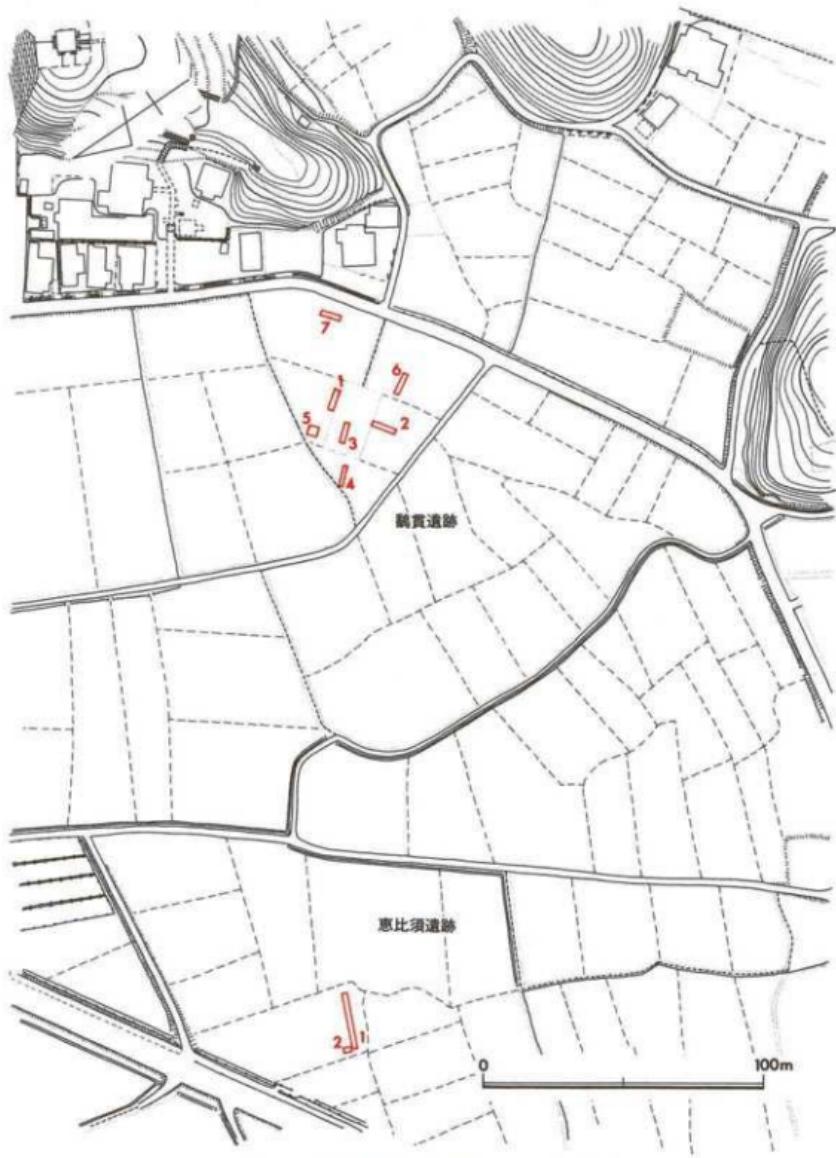
まとめ 本遺跡は、弥生土器を中心に遺物が出土しているが、小片が多く、また遺構に伴うものもないことから、堆積作用によって流れ込んだものと考えられる。



第21図 恵比須遺跡・鶴賀遺跡出土土器実測図



第22図 鶴賀遺跡第5トレンチ(北東壁)土層図



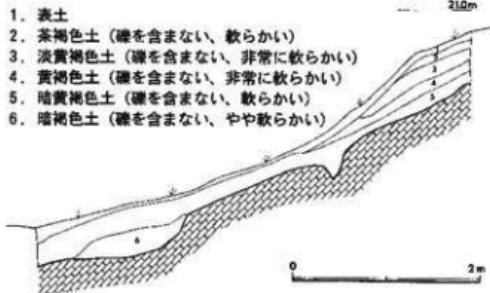
第23図 恵比須遺跡・鶴賀遺跡トレンチ配置図

### (3) 岸尾遺跡

所在地 東出雲町出雲郷字岸尾

立地 意宇平野を西に望む標高15m～30mの低丘陵の先端部に存在する。

概要 丘陵尾根上に15本、南側斜面に8本それぞれトレンチを設定し、調査を行った。丘陵尾根上においては、表土下20cm～30cm掘り下げたところで赤褐色の地山を検出した。斜面においては、表土下80cm～1mのところで地山を確認している。



第24図 岸尾遺跡第9トレンチ(西壁)土層図

遺構は第1トレンチより土壙2基、第5トレンチより溝状遺構1条、第6トレンチより土壙4基、第9トレンチより溝状遺構1条、第13トレンチより土壙、ピット各1基、第16トレンチより土壙1基、第18トレンチより溝状遺構1条、第22トレンチより溝状遺構1条が検出されている。遺物を伴った遺構は第1トレンチの土壙、第23トレンチの溝状遺構のみであり、第1トレンチの土壙内の堆積土中より黒曜石の剥片が出土している。また、第23トレンチの溝状遺構に堆積した暗褐色土層より須恵器環(第26図2)、土師器片が出土している。遺物の大半は、表土下の黄褐色土層より出土している。遺構に伴わない遺物としては須恵器、土師質土器、陶磁器、黒曜石などが出土している。第16トレンチ出土の須恵器片(第26図1)は、高台付きの壺である。

まとめ 本遺跡においては、土壙、溝状遺構が検出されているが、性格、時期等については遺物が伴わないものが多く不明である。

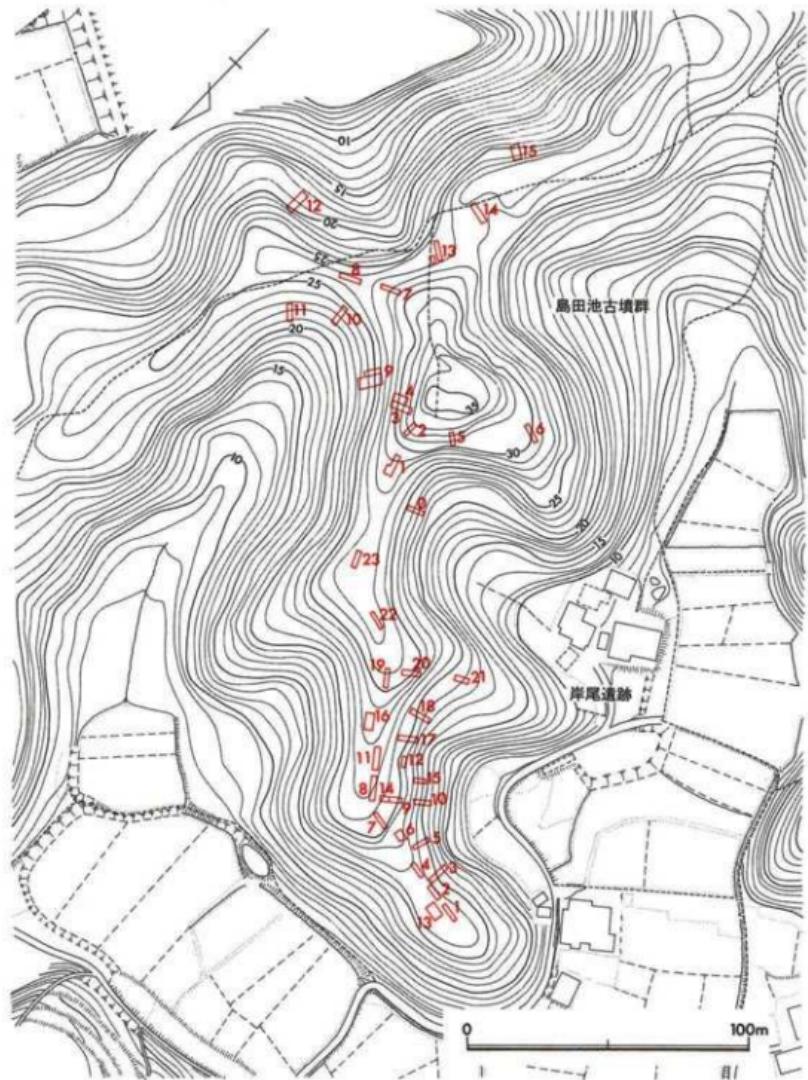
### (4) 島田池古墳群

所在地 東出雲町出雲郷字岸尾、掛屋町字島田

立地 標高25m～35mの丘陵に所在し、岸尾遺跡と同一丘陵上である。

概要 丘陵尾根上に7本、斜面に9本の計16木のトレンチを設定して調査を行った。尾根上のトレンチでは、表土より20cm前後で地山を検出した。

遺構は、第1トレンチにおいて木棺墓1基、溝状遺構1条、第3及び第4トレンチにまたがる形で土壙1基、第6トレンチにおいて溝状遺構2条、土壙1基、第7トレンチにおいて溝状遺構1条、第12トレンチにおいて横穴墓1穴、第13トレンチにおいて土壙1基、中世墓1基、横穴墓1穴、第15トレンチにおいて横穴墓1穴(第27図)を確認している。また、トレンチを設定しなかったが南側

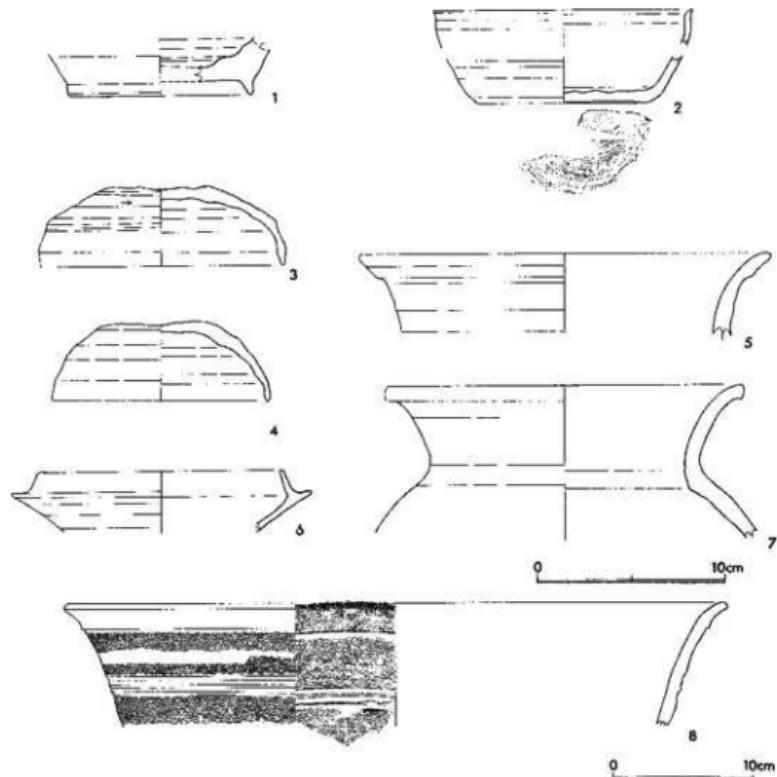


第25図 岸尾遺跡・島田池古墳群トレンチ配置図

斜面において玄室が陥没している横穴墓が確認され、東に派生する丘陵尾根上には、一辺15m程の方墳が存在する。

第1トレンチにおいて検出した木棺墓は、壇丘などは確認されなかったが、溝状遺構が南側において検出されており、本遺構と関連する可能性がある。また、棺外より長頸式の鉄鎌12本が束になった状態で出土している。

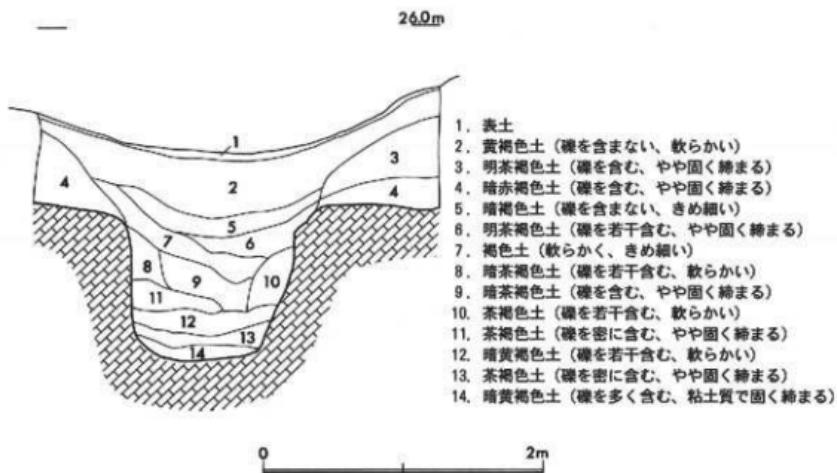
第12・13・15トレンチにおいて横穴墓の前庭部（又は墓道）の存在を確認しており、堆積土中より遺物が出土している。第12トレンチは、完掘していないために前庭部の構造などの詳細は不明であるが、遺物は多量の須恵器片、菅環、土師器片が出土している（第26図 3.5.8）。第13トレンチにおいては、玄門部まで確認しており、前庭部は末広がりの幅広のものとなる可能性が考えられる。



第26図 岸尾遺跡・鳥田池古墳群出土土器実測図

遺物は、須恵器壺片・蓋環・壺片が出土している(第26図 4.7)。第15トレンチにおいては、前庭部の手前半分を床面まで検出している。現段階の様相では、断面はU字形を呈し幅の狭い先細り形のものと推定される。遺物は須恵器壺片・蓋環・壺片が出土している(第26図6)。

また、第12トレンチの横穴墓の堆積土中に穿った中世墓より、古銭11点(第28図)、骨片、炭、鉄器片が出土している。古銭は「洪武通寶」「永樂通寶」の2種が確認されている。



第27図 島田池古墳群第15トレンチ（横穴墓：墓道）横断土層図

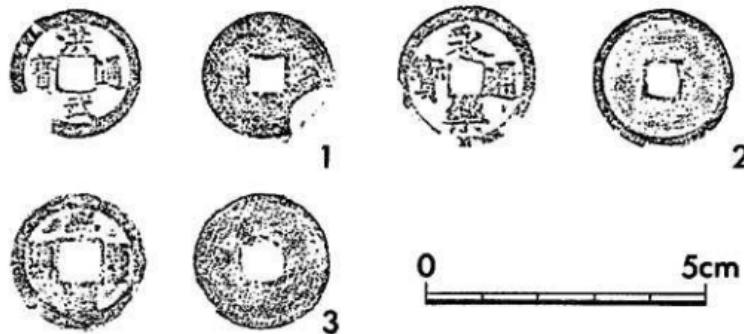


写真2 第1トレンチ木棺墓発掘状況

写真3 第15トレンチ横穴墓発掘状況

遺構に伴わない遺物として、土師質土器碗、須恵器甕・壺・蓋壺、鉄器片が出土している。

**まとめ** 本遺跡は、横穴墓を中心として木棺墓、古墳、中世墓などの墓域として利用されていたものと考えられる。特に、横穴墓は非常に大規模なものと推定され、トレンチで確認された3穴の外にも存在を窺わせる落込みなどが確認でき、少なくとも15穴以上は存在するものと考えられる。



第28図 島田池古墳群第13トレンチ出土古銭

#### (5) 島田遺跡

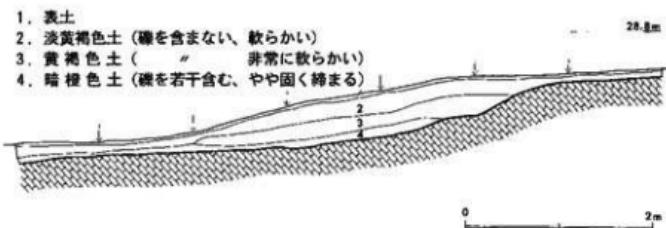
**所在地** 東出雲町揖原町字島田、長廻

**立地** 岸尾遺跡、島田池古墳群と同一の丘陵に存在し、標高25m～30mのところにある。

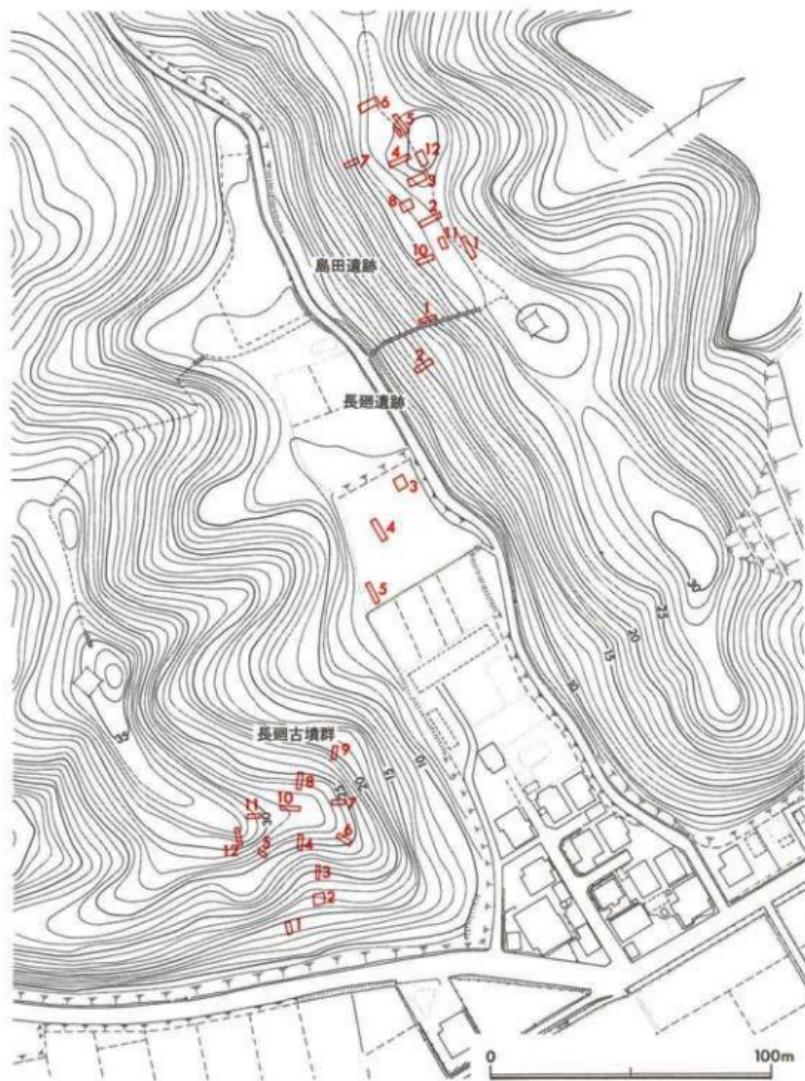
**概要** 丘陵尾根上に9本、南側斜面に2本のトレンチを設定し、調査を行った。丘陵尾根上においては、表土下10cm～20cm掘り下げたところで地山を検出した。

遺構は、第1トレンチより土壙1基、第2トレンチよりピット6基、第5トレンチより土壙1基、第6トレンチよりピット16基、第8トレンチよりピット1基、第11トレンチよりピット2基を検出した。

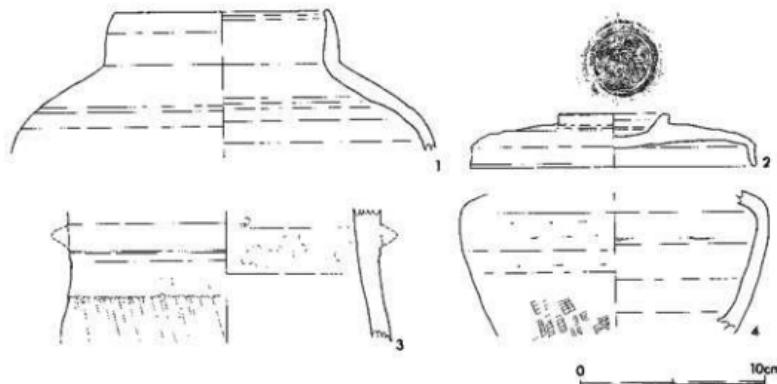
第5トレンチにおいて検出した土壙は、地山面で検出され、縦115cm、横220cmを測る。また、



第29図 島田遺跡第6トレンチ（西壁）土層図



第30図 島田遺跡・長堀遺跡・長堀古墳群トレンチ配置図



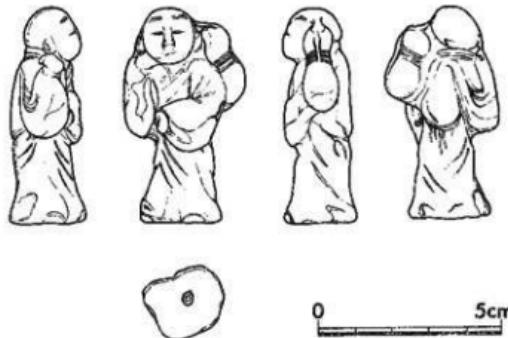
第31図 島田遺跡・長廻遺跡・長廻古墳群出土土器実測図

各トレンチで検出されたピットはかなりの数に上るが、時期、性格については不明である。

出土遺物の大半は、表土下の黄褐色、棕褐色土層より出土している。時期的には近世末～近代の陶磁器、瓦片が多く、須恵器が若干検出されている。造構に伴う可能性のある遺物としては、第6トレンチ出土の陶磁器片、土人形(第32図)、瓦片、須恵器片がある。ただし、造構面直上のものはなく、時期的にも個々の遺物に相違があることから、確実に造構に伴うものとは言い難い。

まとめ 本遺跡においては、丘陵尾根上から上墳墓が検出されており、他にも同様の造構が存在する可能性がある。また、ピットがいくらか検出されているが、性格、時期等が不明である点、今後の課題である。そして、南

側斜面に設定した第7トレンチにおいて、須恵器壺(第31図1)が出土しており、斜面に何等かの造構が存在している可能性を考えられる。



第32図 島田遺跡出土土人形

#### (6) 長廻遺跡

所在地 東出雲町掛川町字長廻

立地 丘陵斜面から谷部の湿地帯に存在する。

概要 丘陵南側斜面に2本、谷部の湿地帯に3本それぞれトレンチを設定し調査を行った。

遺構は、南側斜面に設定した第1トレンチにおいてのみ確認された。斜面を平坦に加工したと考えられるものである。加工した面に堆積した土層は、炭を含んだ層と含まない層が互層状に堆積しており、炭を含んだ第7層より須恵器蓋が2個体出土している。1つは、ほぼ完形で輪状つまみを有し、天井部には糸切り痕を残すものである(第31図2)。また、遺構に伴わないが、第2、第3トレンチにおいて須恵器片が各1片ずつ出土している。第5トレンチにおいては、須恵器が2片出土しており、そのうちの1点は、子持壺の脚部片と推定され、突縁を有するものと考えられる(第31図3)。

まとめ 本遺跡においては、丘陵南側斜面でのみ遺構が検出されたが、性格等については不明である。また、谷部の第5トレンチ出土の子持壺片は、遺構に伴ったものではないが、周辺に古墳、又は横穴墓が存在しており、そこから流れ込んだものである可能性が強いと考えられる。

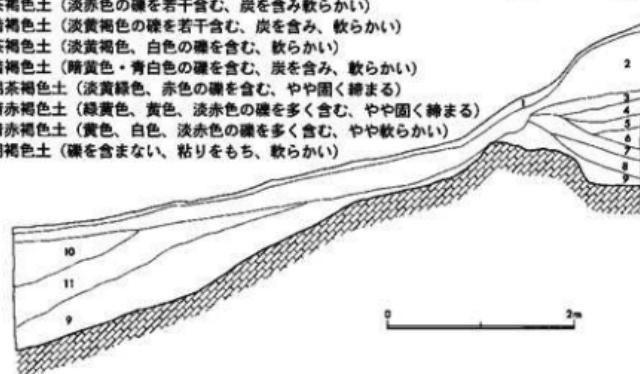
#### (7) 長廻古墳群

所在地 東出雲町掛川町字長廻、今見澤

立地 標高15m～30mの丘陵の先端部に存在し、東に新町川を望む。

概要 丘陵尾根上に3本、東側斜面に6本、西側斜面に3本のトレンチを設定した。遺構は全く

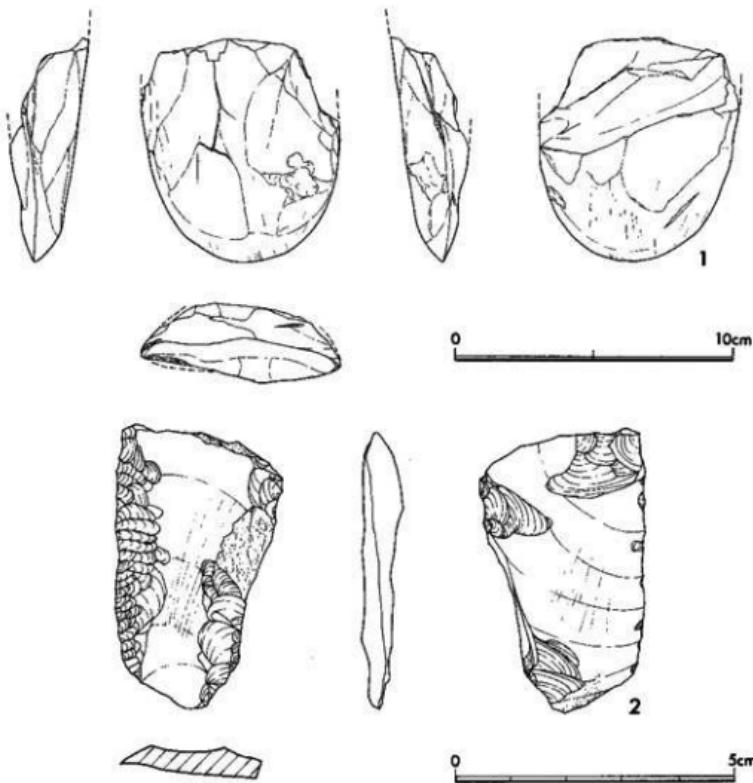
1. 表土
2. 淡褐色土 (礫を含まない、非常に軟らかい)
3. 暗茶褐色土 ( “ 炭を含み、軟らかい )
4. 茶褐色土 (淡赤色の礫を若干含む、炭を含み軟らかい)
5. 暗褐色土 (淡黄褐色の礫を若干含む、炭を含み、軟らかい)
6. 茶褐色土 (淡黄褐色、白色の礫を含む、軟らかい)
7. 暗褐色土 (暗黄色・青白色の礫を含む、炭を含み、軟らかい)
8. 明茶褐色土 (淡黄褐色、赤色の礫を含む、やや固く締まる)
9. 暗赤褐色土 (緑黄色、黄色、淡赤色の礫を多く含む、やや固く締まる)
10. 暗赤褐色土 (黄色、白色、淡赤色の礫を多く含む、やや軟らかい)
11. 明褐色土 (礫を含まない、粘りをもち、軟らかい)



第33図 長廻遺跡第1トレンチ（西壁）土層図

検出されなかったが、第2、第3トレンチより遺物が若干出土している。

第2トレンチ出土の遺物は、陶磁器、石器である。石器(第34図2)は、黒曜石製のスクレーパーである。第3トレンチ出土の遺物は石器(第34図1)と須恵器壺(第31図4)である。石器は磨製石斧の先端で、流文岩製である。壺は、肩部から胴部にかけての破片であり、奈良時代以降のものと推定される。



第34図 長廻古墳群出土石器実測図

(8) 渋山池古墳群

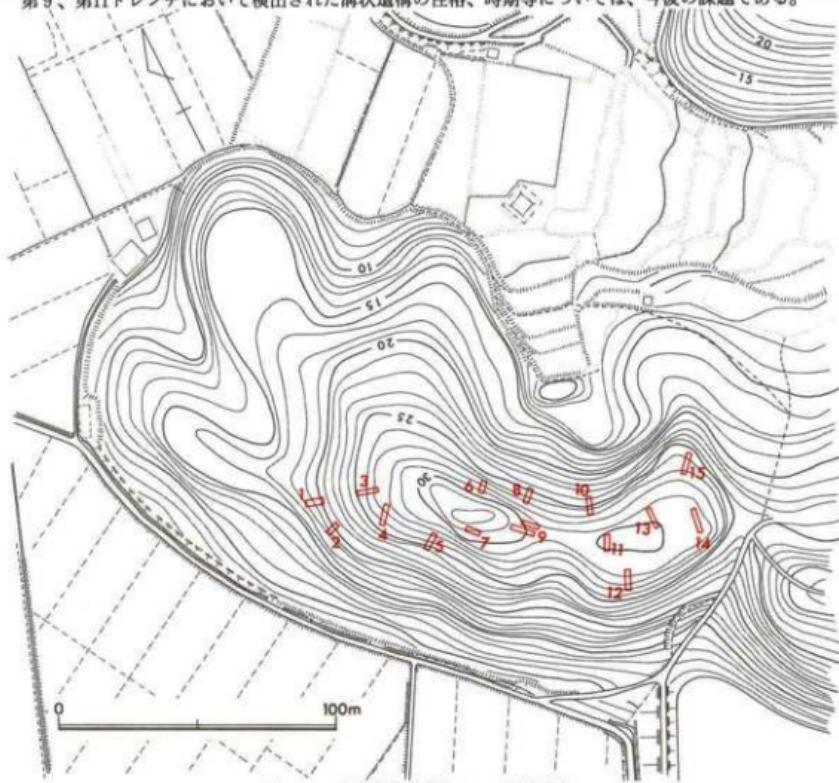
所在地 東出雲町揖屋町字中山

立地 標高25m～30mの丘陵に存在し、西側に新町川を挟んで長廻古墳群の存在する丘陵を望む。

概要 丘陵尾根上に5本、西側斜面に2本、南側、北側斜面に各4本それぞれトレンチを設定した。遺構は、第5、第9、第11トレンチから検出された。南側斜面に設定した第5トレンチは、土

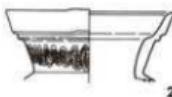
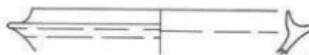
層が橙色系の土と暗褐色系の土が互層状に堆積し、須恵器壺片・蓋坏片(第36図1)が出土している。同斜面には、横穴墓の存在を窺わせる落込みが見られることから、当トレンチに見られる土層の堆積は横穴墓の埋土と推定される。第9トレンチにおいては、径80cm~90cmの土壌と溝状造構が検出され、溝状造構内の堆積土からは須恵器の壺片が多数出土している。第11トレンチにおいても溝状造構が検出され、須恵器の壺片が出土している。また、造構に伴わない遺物として、第1トレンチから土師器片が、第2、第3、第7、第15トレンチからそれぞれ須恵器片が出土している。第13トレンチでは地山面直上より須恵器壺(第36図2)、土師器坏が出土している。

まとめ 本遺跡は南側斜面に横穴墓が5穴前後存在するものと考えられる。また、尾根上に10m前後の古墳が2基以上存在していることから、墓域として利用されていたものと考えられる。また、第9、第11トレンチにおいて検出された溝状造構の性格、時期等については、今後の課題である。



第35図 渋山池古墳群トレンチ配置図

(9) 渋山池遺跡



2

0

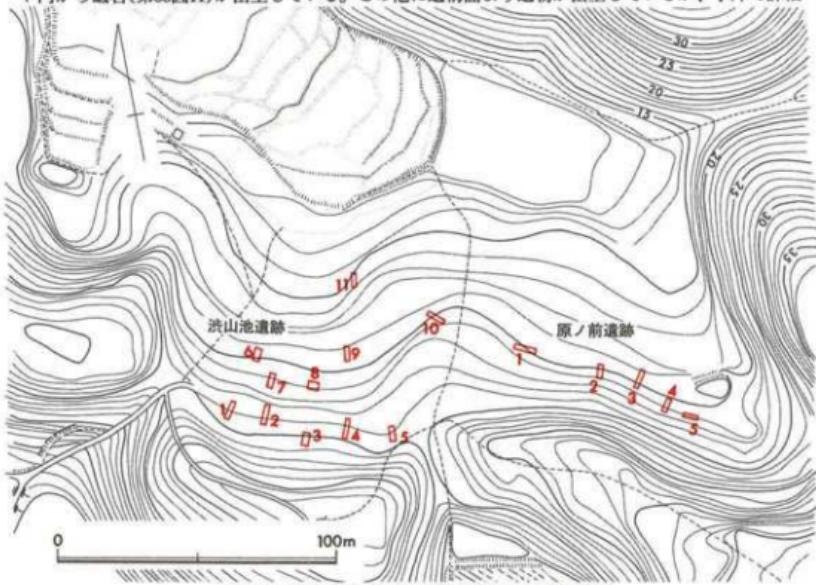
10cm

所在地 東出雲町揖屋字渋山  
1 立地 新町川の流れる南北に広がる谷から、東に入り込む小谷の奥部の緩斜面に位置する。  
概要 地形は近年まで耕作地に利用されていたために改変を受けており、階段状に平坦面が存在する。その平坦面の上段、中段に各5本、下段に1本のトレンチを設定し調査を行った。遺構は、第3、第4、第6トレンチ以外のトレンチから検出されている。

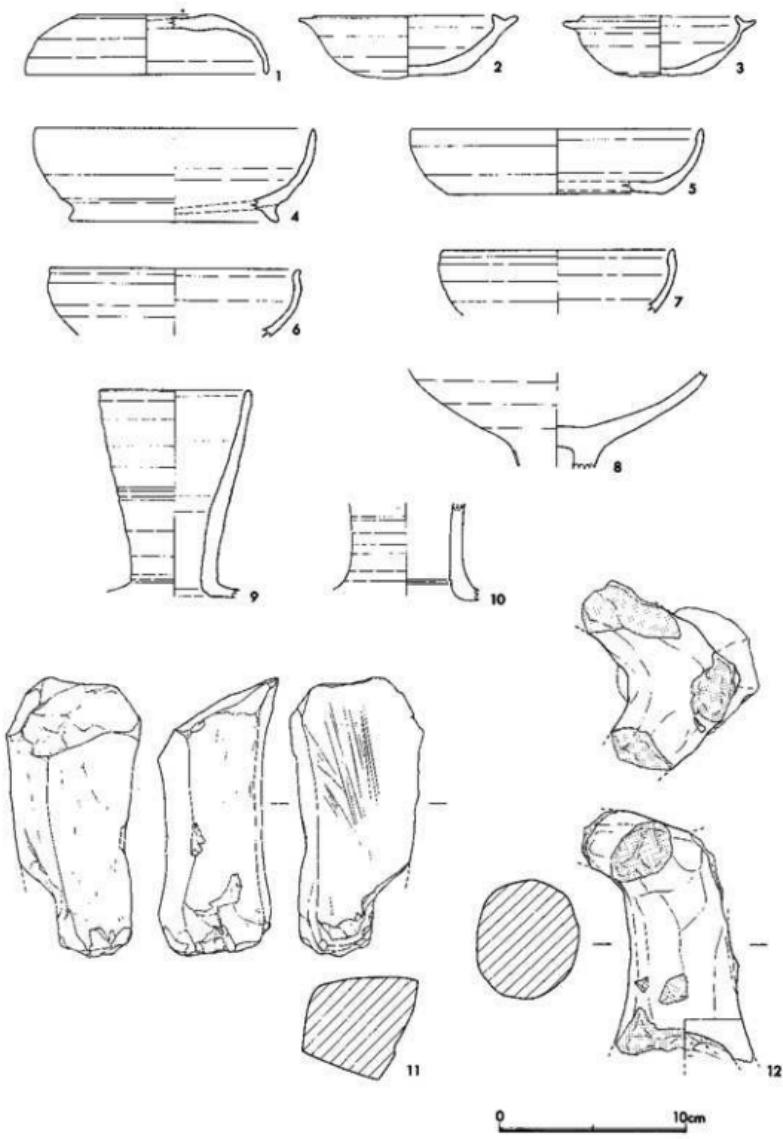
第1トレンチからはピット11基、土壤4基を検出した。出土遺物は須恵器高环(第36図8)・甕片・蓋環(第38図3.4)・長頸壺(第38図10)、土師器甕、瓶、土製支脚が出土している。時期的には7世紀前葉から8世紀中葉と考えられる。

第2トレンチからは、ピット2基を検出し、須恵器坏・甕片、土師器甕が出土している。

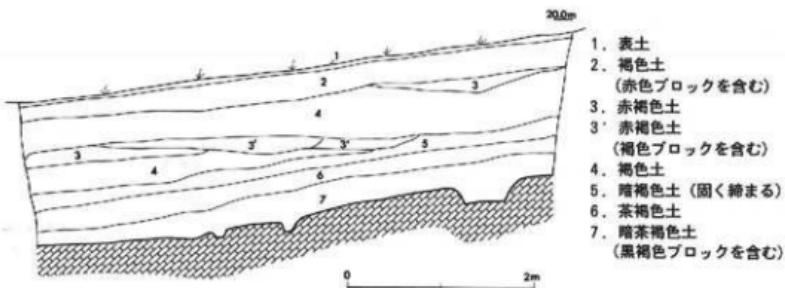
第5トレンチでは溝状遺構1条、ピット16基、土壤2基を検出した。遺構に伴う遺物としてはピット内から砥石(第38図11)が出土している。この他に遺構面より遺物が出土しているが、小片で詳細



第37図 渋山池遺跡・原ノ前遺跡トレンチ配置図



第38図 濱山池遺跡出土遺物実測図



第39図 浄山池遺跡第9トレンチ（東壁）土層図

は不明である。遺物包含層からは須恵器壺・高坏・蓋坏、土師器壺、土製支脚、鉄片が出土している。時期は7世紀代と考えられる。

第7トレンチでは、ピット7基、溝状造構2条を検出している。後世の擾乱を受けており、造構に確実に伴う遺物は確認できないが、須恵器坏（第38図6）・壺、土師器壺、土製支脚（第38図12）、竈形土製品が出土している。

第8トレンチは後世の擾乱が著しいが、その中から上塙2基を検出した。遺物は須恵器壺・壺、土師器壺が出土している。

第9トレンチからはピット17基を検出している。遺物は造構面から須恵器壺（第38図2）・長頸壺（第38図9）、土師器壺が出土している。時期は、7世紀前葉と考えられる。また、遺物包含層からは、須恵器壺・蓋坏（第38図1.5.7）・高坏、土師器壺、土製支脚、竈形土製品、鉄滓が出土している。時期は9世紀代のものが若干含まれるが、大多数は7世紀～8世紀代と考えられる。

第10トレンチでは、堅穴住居跡1棟、ピット7基、土壤2基を検出した。遺物は、須恵器、土師器、陶磁器などが出土しているが何れも小片であり詳細は不明である。

**まとめ** 本遺跡は、7世紀～8世紀代にかけての集落跡が存在するものと考えられる。また、現段階においては、詳細は不明であるが堅穴住居跡の存在も確認されていることから、7世紀以前から集落として利用されていたものと考えられる。



写真4 第9トレンチ遺物出土状況

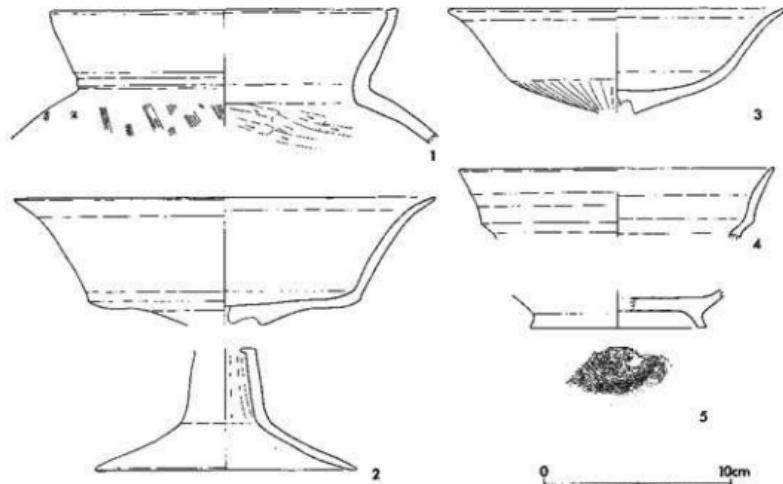
### (10) 原ノ前遺跡

所在地 東出雲町揖屋町字原ノ前

立地 渋山池遺跡と同一の小谷のさらに奥部の緩斜面に存在する。

概要 トレンチを5本設定して調査を行った。遺構は、第1トレンチにおいて竪穴住居跡と推定されるものを1棟検出した。覆土内より弥生時代後期後半の壺形土器(第40図4)が出土している。他のトレンチから遺構は検出していないが、第3トレンチより須恵器壺(第40図5)、第4トレンチより土師器壺(第40図1)・高壺(第40図2.3)、碧玉、瑪瑙の剥片などの遺物が出土している。上部器は、高壺が大部分で古墳時代中期のものと考えられる。

まとめ 本遺跡には、弥生時代の竪穴住居跡が存在するものと思われる。また、多量の碧玉、瑪瑙の剥片の出土から古墳時代中期の手作工房跡の存在も推定される。



第40図 原ノ前遺跡出土土器実測図

### (11) 四ツ廻Ⅱ遺跡

所在地 東出雲町揖屋町四ツ廻ほか

立地 中海岸から南へ入り込んだ狭長な谷の最深部に面した、標高約30m~40mの丘陵上に位置する。東接する谷は以前は谷水田として利用されていたよう、現在でも小川が流れている。今回の調査地の約100m北側でも遺跡の広がりが確認されており、また同じ丘陵の西側斜面では前述の原ノ前遺跡などが確認されている。

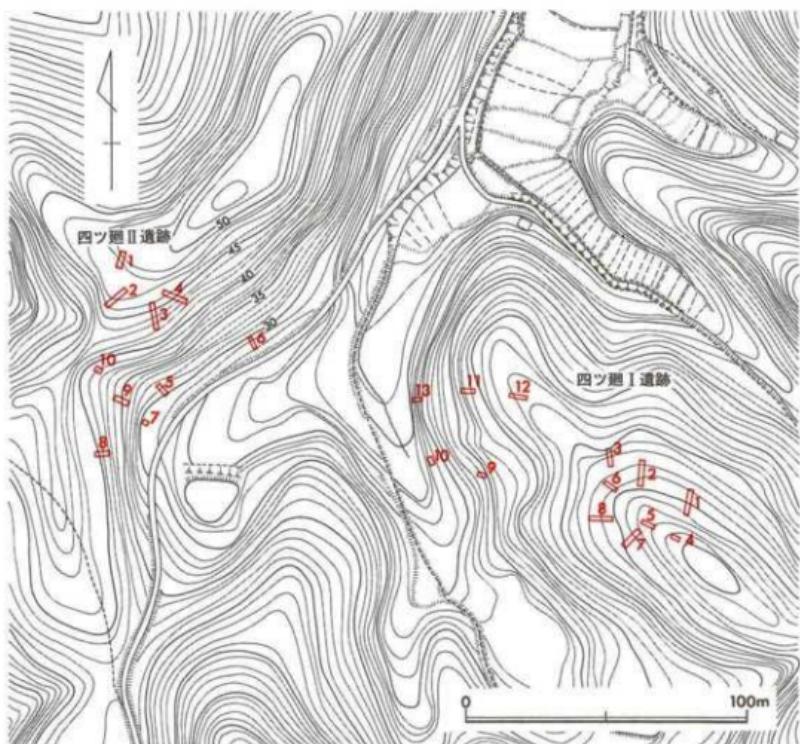
概要 任意の10箇所に2m×2~10mのトレンチを設定し調査を行った。尾根上に設定した第1

～第4トレンチでは遺構を検出できなかったが、谷に面した丘陵東側斜面の第5～第10トレンチの全てで遺物が出土している。東側斜面における基本層序は、現在の表土層の直下に鮮やかな赤褐色土層が厚く堆積し、これ以下に黒褐色、茶褐色、黄褐色を呈する層があり、地山に達する。遺物包含層は黒褐色土層以下で、これより上層では表土層から土器が散発的に出土するのみであった。なお、第6トレンチではこの層序とは異なり、遺物包含層は広がっていなかった。

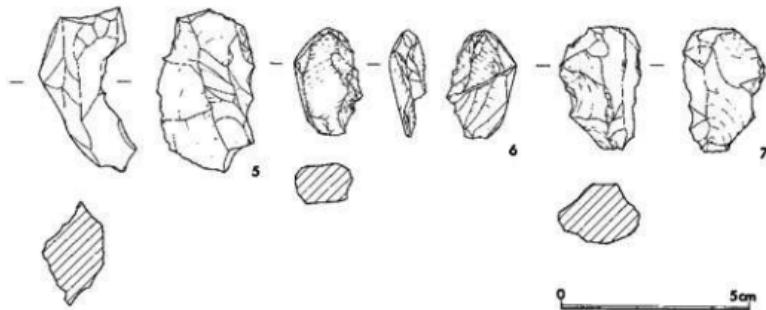
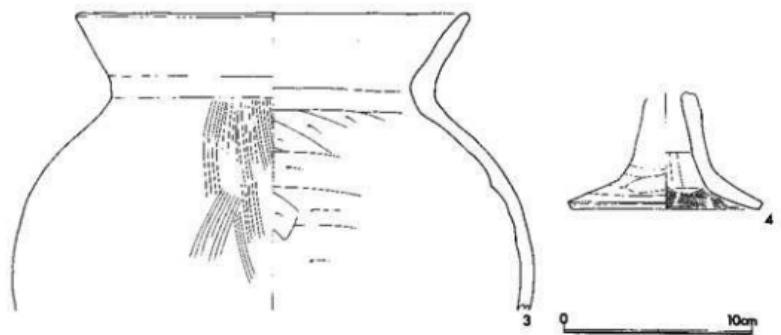
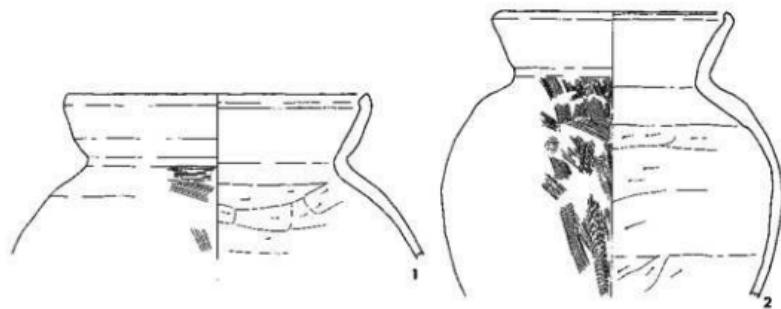
出土土器のほとんどは土師器であり、他に竈形土製品もみられる。

第5・第9トレンチでは、地山をカットして造り出した平坦面と、それに関係すると思われるピットが各々で数基検出されており、直上の土層からは古墳時代中期～後期の土器が出土している。(第42図1～4)。

出土土器の大部分は土師器壺・壺片であり、須恵器は小片が数個体分のみ存在する。他に竈形



第41図 四ツ廻II遺跡・I遺跡トレンチ配置図



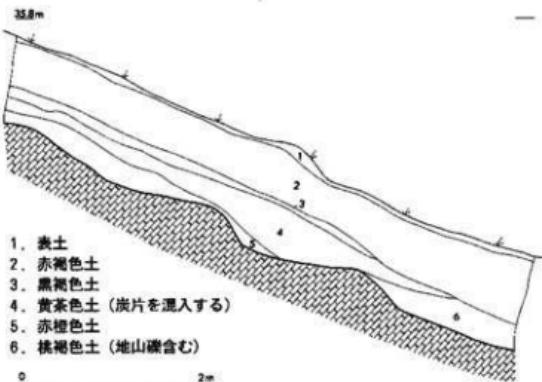
第42図 四ツ廻II遺跡出土遺物実測図

上製品や、上製支脚も認められる。これらの時期は、概ね古墳時代中期後半～後期に属すると思われる。

また土器と共に碧玉・瑪瑙の勾玉未製品が4点（剥片を含むと5点）出土している（第42図5～7）。これらは荒削の段階を既に終えており、荒く研磨がなされているものもある。

**まとめ** 検出した遺構は古墳時代中期～後期の住居跡の一部であると思われ、この内部で玉を製作した可能性も考えられる。この時期、出雲地方では花仙山（玉湯町）周辺や安来平野において盛んに玉作りが行われていたことが既に明らかにされているが、今回の調査によってこれまで空白であった当地域でも玉作りが行われていた可能性があることを確認した。

註1 東出雲町教育委員会により平成4年度から発掘調査が行われている。



第43図 四ツ廻II遺跡第8トレンチ（北壁）土層図

#### (12) 四ツ廻I遺跡

**所在地** 東出雲町揖屋町四ツ廻

**立地** 四ツ廻II遺跡と谷を挟んだ東側の丘陵の、尾根頂部から尾根先端部分にかけて位置する。丘陵最高所は標高約48mで、谷から中海までを望むことができる。

**概要** 地形に則して13箇所に2m×4～10mのトレンチを設定した。幾つかのトレンチで焼上痕が見られたが、いずれもごく最近のものであると思われ、明瞭な遺構は検出されなかった。遺物は尾根先端付近に設定した第13トレンチで土師器小片が出土したが出土状況よりみて後世の擾乱により混入したものと思われる。

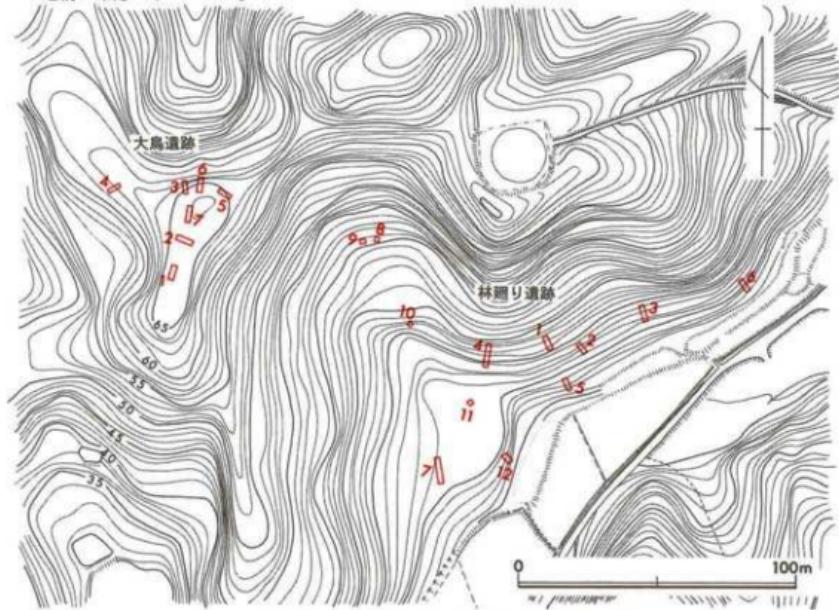
**まとめ** 隣接する四ツ廻II遺跡の存在などから当初遺跡が広がっていることが予想されたが、調査の結果、この対象地からは遺跡の広がりを想定させる遺構・遺物は確認できなかった。

### (13) 大鳥遺跡

所在地 東出雲町掛屋町字大鳥

立地 中海に向かって延びる丘陵上、標高約60~65mに位置する。周囲の丘陵の中では比較的高所に位置し、西方には意宇平野から茶臼山までを望むことができる。

概要 丘陵上の平坦部に2本、北方向の緩斜面に1本、北西斜面に2本、西方斜面に1本のトレンチ（2m×5~7m）を設定し調査を行った。北西斜面の2本を除き、何れのトレンチも表土下の堆積層が5~10cmと薄く、北西斜面の第4トレンチの表土中で土師器小片が1片出土したのみで、遺構は確認できなかった。

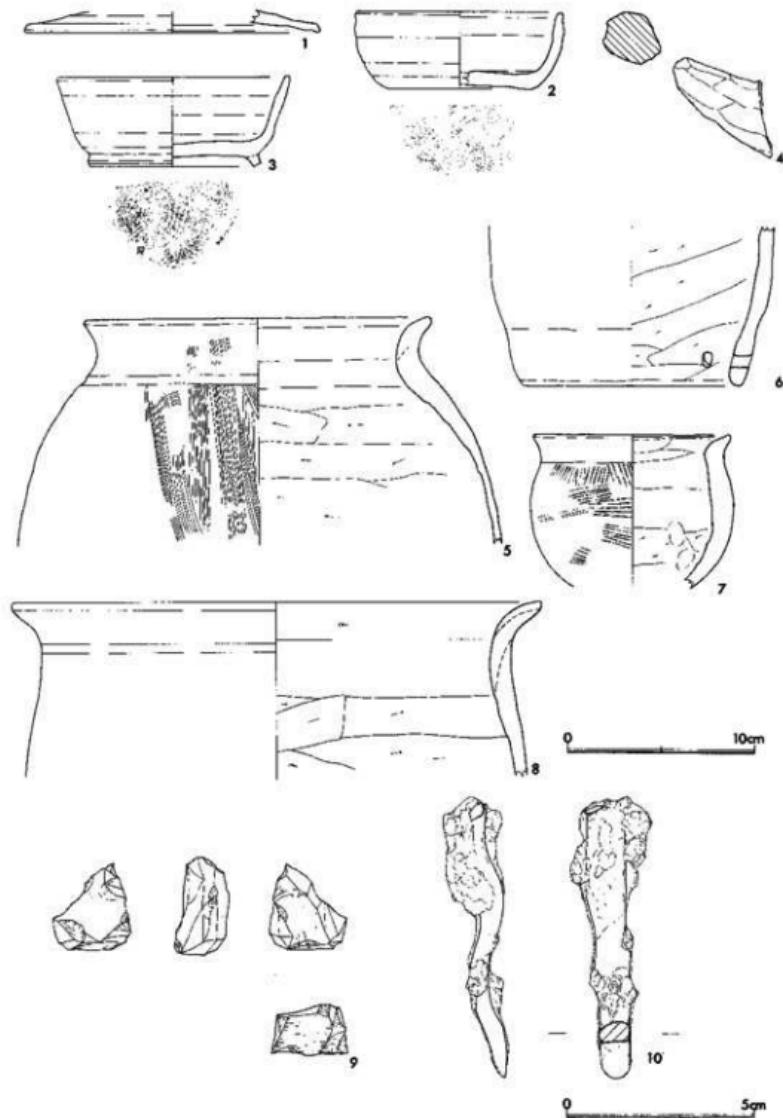


第44図 大鳥遺跡・林廻り遺跡トレンチ配置図

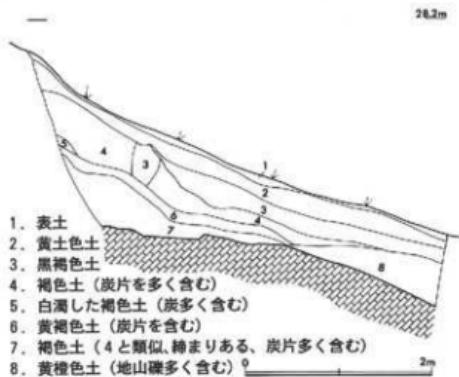
### (14) 林廻り遺跡

所在地 東出雲町掛屋町字林廻り

立地 大鳥遺跡のある丘陵の東側斜面、標高約20~35mに位置する。南北に狭長に延びる谷筋とは、尾根筋から派生した低丘陵によって阻まれた谷部であり、目前には小規模の耕地を経て東接する丘陵がせまっている。遺跡は丘陵斜面から扇状の耕地を含んでいる。この耕地は以前はそれぞれが小区画の水田地として利用されており、奥には小規模ながら貯水用の堤を備えている。



第45図 林廻り遺跡出土遺物実測図



第46図 林廻り遺跡第2トレンチ(北壁)土層図



写真5 第1トレンチ土器出土状況

**概要** 地形の細かな変化なども考慮し、12箇所に  $2\text{m} \times 2\sim 12\text{m}$  のトレンチを設定した。水田として地形を改変されていない斜面上のトレンチのうち、第1・第2トレンチでは多量の土器が出土し、遺構の一部も検出されている。

第1トレンチでは地山を平坦に加工し、その一端を段状にした遺構の一部が確認された。この段状の部分に口縁部をほぼ完全に接した形で甕形土器が出土している。(第45図1、写真6)。第2トレンチ

では1mにも及ぶ厚い包含層があり、地山は第1トレンチと同様にカットされ、平坦面となっていた。この平坦面からは、直徑約30cmのピットが確認されている。包含層からは多量の土器とともに水晶製玉未製品や性格不明鉄製品など(第45図11、12)も出土している。これらの土器の時期は概ね古墳時代後期後半から奈良時代以降のものが中心である。第1・第2トレンチの

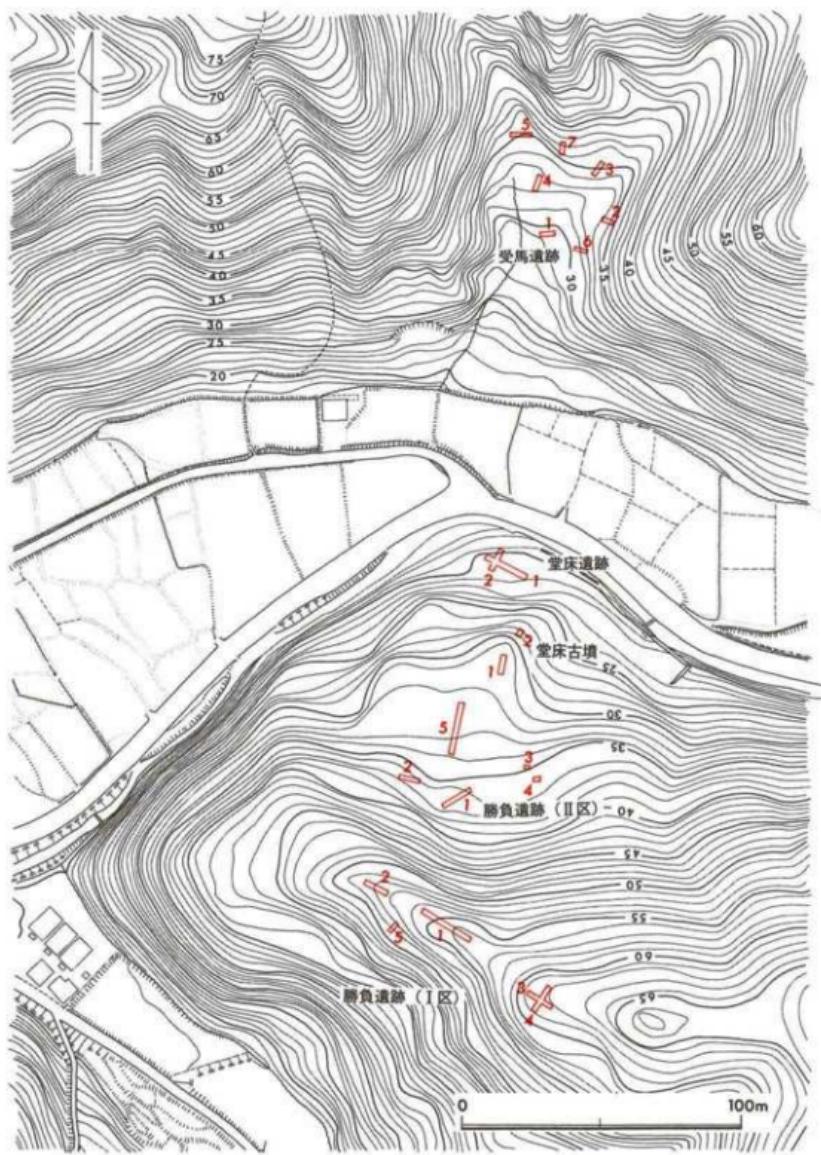
下方に位置し、水田として改変を受けている第4・第12トレンチなどの水田層でも摩滅の著しい土器小片の流入は認められたが、明瞭な遺構は確認されなかった。また、当初、横穴墓の存在が予想された第6トレンチ付近の斜面では、表面観察で大きな落込みが見られたが、遺構、遺物とも確認されなかった。

### (15) 勝負遺跡

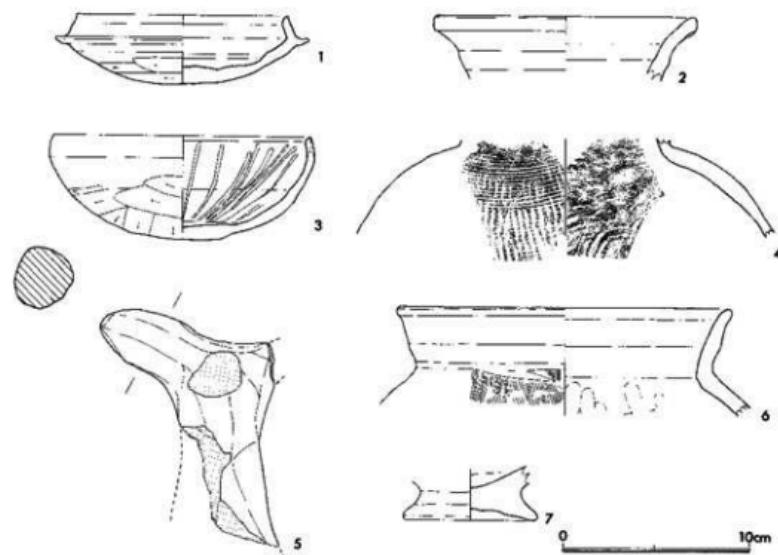
**所在地** 東出雲町掛屋町字勝負ほか

**立地** 大鳥遺跡などが位置する丘陵の東側、南北に細長い丘陵上に位置する。丘陵尾根上は標高約55mと高く、中海から遠く島根半島までを望むことができる。東側の斜面は尾根頂部から中腹の標高約40mまでは急峻であるが、これより低い位置は非常に緩やかな斜面となり水田部へと移行している。この傾斜変換点付近ではかなりの平坦面が広がっており、この平坦面と谷部の水田面との標高差は約20mを測る。

**概要** 丘陵尾根上をI区、丘陵東側斜面をII区と便宜上呼称し、各々に5箇所トレンチを設定した。



第47図 勝負遺跡・堂床古墳・堂床遺跡・受馬遺跡トレンチ配置図



第48図 勝負遺跡（II区）出土土器実測図

I区では、第2トレンチの表土層中より須恵器壺片が出土したのみで、明瞭な遺構は検出されなかった。

II区では、調査前から多くの土器が表採されており、調査の結果全てのトレンチにおいても多数の遺物・遺構が検出されている。遺物は表土層から地山直上まで出土しており(第48図)、その大半は土師器である。最も古いものは弥生時代後期の壺片が1点見られるが、表土層中からの出土であり、後世の混入であると思われる。中心は古墳時代以降の土器で、上師器の壺・壺片が多数を占める。他に、瓶や上製支脚、轟形土製品の一部も出土している。第2トレンチでは、地山直上より、底部外面を削り内面に放射状の暗紋を施した土師器の壺(第48図3)が出土している。第

5トレンチでは、遺構の一部は開墾により削平されているが、直径約30cm深さ約40cmのビットが10基以上検出されている。

何れのトレンチでも複数の遺構が切り合っていると見られ、遺跡の様相はかなり複雑である。



写真7 勝負Ⅱ区第5トレンチビット検出状況

#### (16) 堂床古墳

所在地 東山雲町揖屋町字堂床

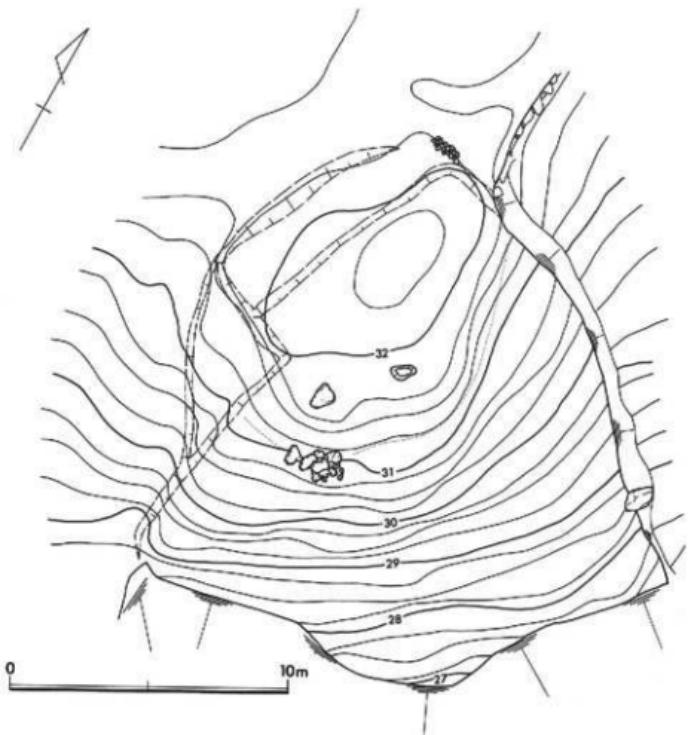
立地 勝負遺跡（II区）の立地する緩斜面の東端部、標高約26mに位置する。本来は丘陵より短く派生した低丘陵の先端部分であったと思われるが、開墾などにより周囲は大きく変化している。東側には、南北に狭長な谷が入り込んでおり、水田地として利用されている。古墳は、谷の中程にあり、墳丘上からは現在は竹林によって遮られているが、谷の最奥部を除いてほぼ全景を望むことのできる位置にある。

概要 古墳は1基確認できる。しかし字名の「堂床」からも推測されるように、墳丘上には後世「お堂」などの信仰の対象となる何らかの施設がつくられていた可能性が考えられる。現状からは、西側で墳丘を削り方形の壇を2段造り出している様子や、この壇の一角に入頭大の河原石を約1mの範囲で円形に高さ20cm程度集積してある塚状のものや、墳丘中央付近では直径30cm深さ40cmの何らかの抜取り痕状のビット2基などを確認している。また墳丘中央付近から東側斜面にかけては凝灰岩質の一部加工痕の残る石材が散乱しており、古墳に伴うものである可能性が考えられる。このように後世の改変を受けていることは明らかで、現状では墳端を復元することは難しいが、10m前後の円墳または、方墳であると思われる。

調査は、墳丘規模と盛土の残存状況の確認のため、墳丘の一部が掛るようにトレンチを2箇所に設定した。墳丘西側にあたる第1トレンチ



第49図 堂床古墳第2トレンチ(北壁)土層図



第50図 堂床古墳地形測量図

では、盛土は後世方形の墳に加工した時点での削平され、認められなかつた。また、地山もこれに伴って削られており、墳端は不明であった。第2トレンチは墳丘から外れていたらしく、何れについても明らかにし得なかつた。

遺物については、墳丘中央で、底部に糸切り痕のある土師質土器1片(第51図1)を表採、他に各トレンチから須恵器鏡片を表土層中より數片確認している。

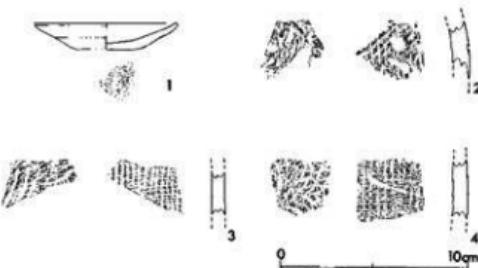


写真8 堂床古墳墳丘と散在する石材

### (17) 堂床遺跡

所在地 東出雲町掛屋町字堂床

立地 堂床古墳の東側に位置する。東側水田部との比高約10mを計測する。丘陵先端の斜面を大規模に削平した平坦部を東西に二分する形で石垣状の石列が表面観察により確認できる。ここには昭和初期まで民家が存在していたということであり、石列はこれに伴うものと考えられる。調査区に2箇所のトレンチを設定し調査を行った結果、寛永通寶1枚、鉄製キセル1点、土師質土器片数点を確認した(第52図)。造構について確認されなかった。



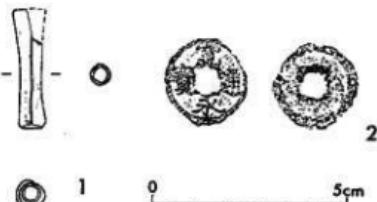
第51図 堂床古墳出土土器実測図

### (18) 受馬遺跡

所在地 東出雲町掛屋町字受馬

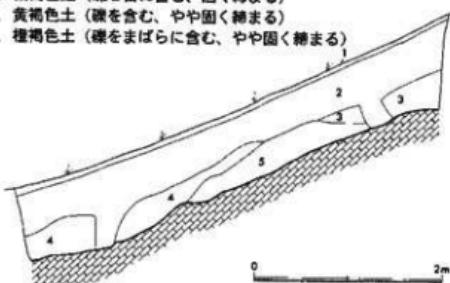
立地 標高30mから40mの平坦面で、3つの小谷が集まる平坦地である。西方に市原川を望む。

概要 計7本のトレンチを設定し、調査を行った。谷の集まる地点であるために、水の流出が激しく、第1・第3トレンチにおいては、青灰色粘質土層で発掘を停止した。遺物は斜面に設定した第7トレンチから土師質土器が3個体出土している。いずれも、暗黄褐色土層中から



第52図 受馬遺跡出土遺物実測図

1. 表土
2. 暗黄褐色土（礫を若干含む、軟らかい）
3. 棕褐色土（礫を密に含む、固く締まる）
4. 黄褐色土（礫を含む、やや固く締まる）
5. 棕褐色土（礫をまばらに含む、やや固く締まる）



第53図 受馬遺跡第7トレンチ（北壁）土層図

出土しており、底部に静止糸切り痕を残す。底部のみの出土であり、詳細は不明である。

まとめ 本遺跡からは土師質土器のみが出土している。遺構に伴うものではないが、すぐ近くに荒神が祭られていたと伝えられており、これに伴うものと考えられる。

#### (19) 毛無遺跡

所在地 東出雲町下意東字毛無

立地 意東川の流れる平野に面した丘陵の西側斜面、標高約65m付近に位置する。

概要 斜面上に2m×4mのトレンチを1箇所設定した。堆積層は浅く、表土下20cm~30cmで地山に達する。遺構・遺物とも確認されなかった。

#### (20) 毛無古墳

所在地 東出雲町下意東字毛無

立地 毛無遺跡の北側、傾斜が緩やかになった斜面上に位置する。民家と隣接しており一部は畠地として現在も利用されている。以前は小区画の水田があり、石組や水路が残っている。



第54図 毛無遺跡・毛無古墳トレンチ配置図

**概要** 任意に6箇所のトレンチを設定した。以前水田であったと思われる位置に設定した第1・第2トレンチでは、旧水田層から須恵器小片が出土したが、他のトレンチでは遺構・遺物とも確認されなかった。

(21) **卷林遺跡**

**所在地** 東出雲町下意東字卷林

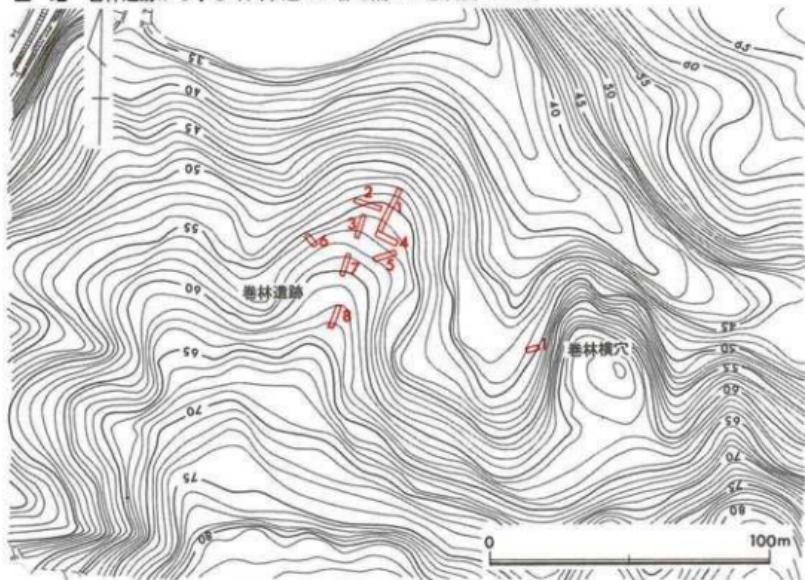
**立地** 清水遺跡のある平野の東側丘陵上に位置し、安来市との境界付近にあたる。標高は55m～65mで、北向きの丘陵中腹にひらけた約25m四方の平坦面である。

**概要** 任意に2×4～8mのトレンチを8箇所に設定した。基本的層序は、表土下に黄土色土の堆積層があり、遺構はこの直下から掘り込まれている。第1・3・4・5・8トレンチではピットや土壤を1基、第6トレンチでは楕円形を呈し、底に炭層がある焼土壤を1基確認している。これらの遺構に確実に伴う遺物は明かではないが、黄土色土層あるいはそれより下層から土器(第56図)が出土している。

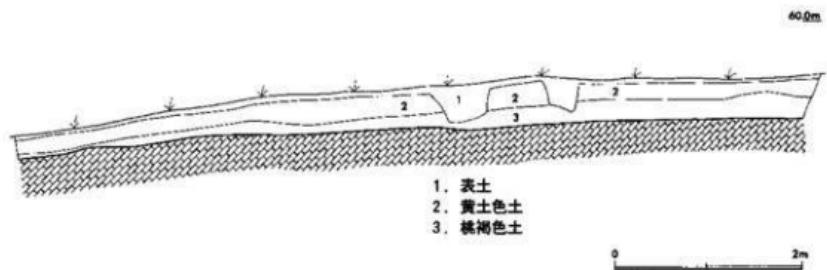
(22) **卷林横穴**

**所在地** 東出雲町下意東字卷林

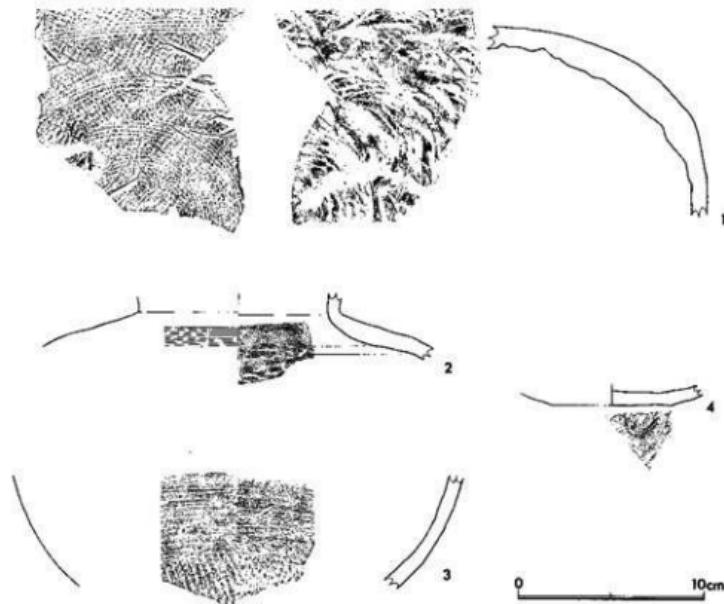
**立地** 卷林遺跡から小さく入り込んだ谷を隔てた急斜面にある。



第55図 卷林遺跡・卷林横穴トレンチ配置図



第56図 卷林遺跡第4トレンチ（南壁）土層図



第57図 卷林遺跡出土土器実測図

**概要** 横穴墓の前庭部状の落ち込みが調査区外において確認できることから、当初横穴墓の存在が予想されたが、調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。

出土しており、底部に静止糸切り痕を残す。底部のみの出土であり、詳細は不明である。

まとめ 本遺跡からは土質質土器のみが出土している。遺構に伴うものではないが、すぐ近くに荒神が祭られていたと伝えられており、これに伴うものと考えられる。

(19) 毛無遺跡

所在地 東出雲町下意東字毛無

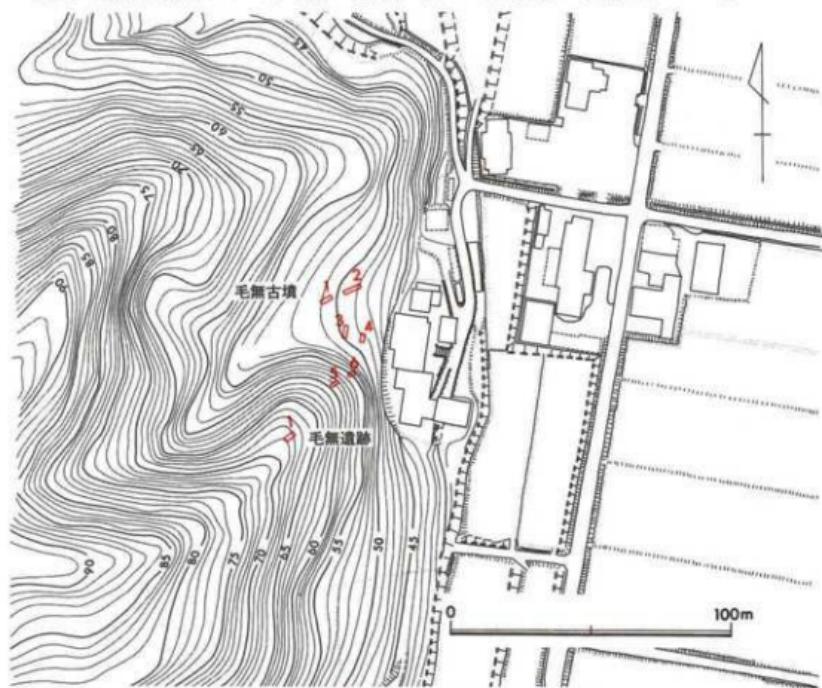
立 地 意東川の流れる平野に面した丘陵の西側斜面、標高約65m付近に位置する。

概 要 斜面上に 2 m × 4 m のトレンチを 1 箇所設定した。堆積層は浅く、表土下20cm～30cmで地山に達する。遺構・遺物とも確認されなかった。

(20) 毛無古墳

所在地 東出雲町下意東字毛無

立 地 毛無遺跡の北側、傾斜が緩やかになった斜面上に位置する。民家と隣接しており一部は畠地として現在も利用されている。以前は小区画の水田があり、石組や水路が残っている。



第54図 毛無遺跡・毛無古墳トレンチ配置図

# 図 版



図版 1-1

御崎谷遺跡遠景（写真中央）



図版 1-2

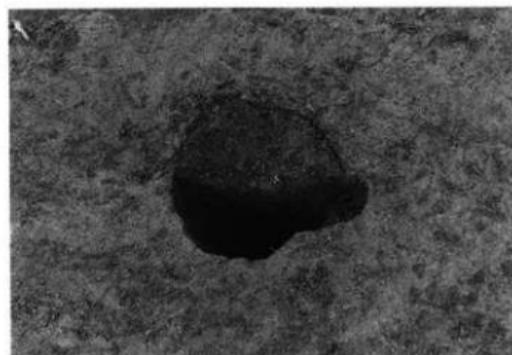
御崎谷遺跡 SD 01・SD 02

検出状況



図版 1-3

御崎谷遺跡 P 2 検出状況

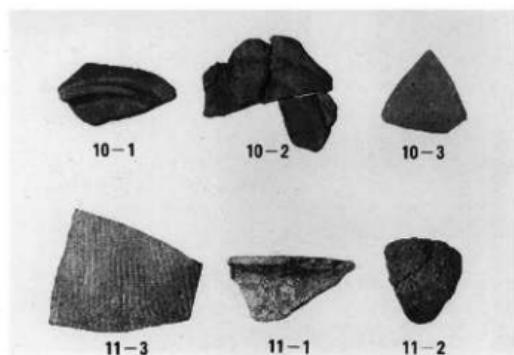




図版 2-1  
御崎谷遺跡SK 02 完掘状況



図版 2-2  
御崎谷遺跡北側斜面  
(塙込みは植樹痕)



図版 2-3  
御崎谷遺跡出土土器

図版 3—1  
土元遺跡調査前近景



図版 3—2  
土元遺跡堆積状況

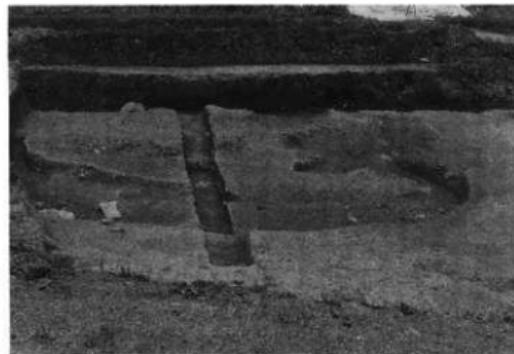


図版 3—3  
清水遺跡調査前近景

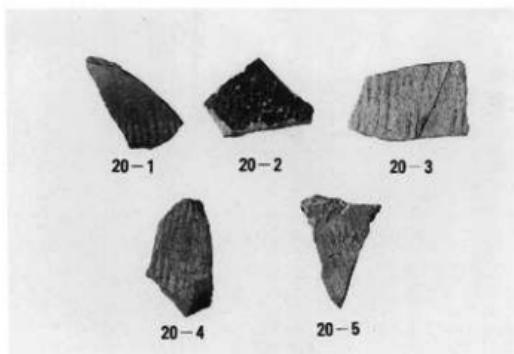




图版 4—1  
清水遺跡Ⅰ区完掘状況



图版 4—2  
清水Ⅱ区完掘状況



图版 4—3  
清水遺跡出土土器

平成5(1993)年3月印刷  
平成5(1993)年3月発行

一般国道9号安来道路建設予定地内  
**埋蔵文化財発掘調査報告書 西地区Ⅰ**

発行 建設省松江国道工事事務所  
島根県教育委員会  
印刷 渡部印刷株式会社